

琵琶湖博物館 フィールドレポーター

# 掲 示 板

2021 年度 第 1 号 通巻 100 号 2022 年 3 月 31 日発行



ミズアオイ

情報が行きかい、新たな活動が生まれる「掲示板」に

琵琶湖博物館 館長 高橋 啓一

「フィールドレポーター掲示板」100号、おめでとうございます。

長く、ひとつの物事を続けるのは、大変な努力がいるものです。フィールドレポーターの皆さまや事務局の皆様感謝申し上げます。

フィールドレポーター制度は、琵琶湖博物館が開館した翌年の1997年にはじまりました。それと同時に「掲示板」も開始されました。その第1号には、「掲示板」発行の目的として「これまでの自由形調査や質問を掲示板にのせることで、より多くの皆さんの情報交流ができるのではないかと思います。」と書かれており、会員間の情報交換をめざして作られたものであることが伺えます。最初の頃は、会員や館員からの短い文章がつぎつぎに並ぶだけの飾り気のないものでしたが、今見返すと新しいことが始まった息吹のようなものを感じることができます。

一方、博物館が発行している年報を見ると、フィールドレポーター制度の最初から「掲示板」があったにもかかわらず、1997年度の「フィールドレポーター」の説明のところには「フィールドレポーター便り」と「フィールドレポーター交流会」の名称はでてきますが、「掲示板」の名称は見られません。この名前が出てくるのは、2000年度の年報になってからです。このことからわかるように、「掲示板」は形式ばった発行物というよりも、フィールドレポーター間の情報共有を密にするツールとして生まれ、使われてきたものなのでしょう。

フィールドレポーターは、琵琶湖博物館の活動の中心のひとつをなす大きな活動です。そのフィールドレポーターの活動が「掲示板」があることによって、多くの方々からの様々な情報が行きかい、そうした情報から新たな活動が生まれる、そうした活動のきっかけとなる「掲示板」を続けていきたいと思っています。

	情報が行きかい、新たな活動が生まれる 「掲示板」に	高橋啓一	P1
	目次		P2
1	フィールドレポーター活動の回想	椋島昭絃	P3
2	負うた子に教えられ	ファールおばさん	P4
3	フィールドレポーターに参加した思い出	奥村恵津子	P5
4	余生の課題は観察	近江心気郎	P6
5	掲示板 100 号によせて	草津家猫	P7
6	タンポポの頭花基部の幅	前田雅子	P8-9
7	2020 年度 秋の赤とんぼ調査実施報告	椋島昭絃	P10
8	12 月中旬琵琶湖、 南湖上空に舞うツバメ (?) 発見	椋島昭絃	P11
9	近江商人のパワーは だろがめ汁	中野敬二	P12-14
10	掲示板投稿タイトル総覧 創刊号～第 100 号	金尾滋史	P15-28
11	活動報告	編集局	P29-30
12	活動予定	編集局	P31

**🔍 交流会回想**

「中池見湿地観察交流会の思い出」



観察会 2016 年 9 月 17 日

湿地帯遊歩道より入口方向を撮影

湿地ヨシ帯ではカヤネズミも観察しました。(FR:中野)

巻頭写真：  
ミズアオイ

## 1. フィールドレポーター活動の回想

大津市 椋島昭紘

フィールドレポーター（以下FR）登録は2003年でした。琵琶湖博物館主催の観察会に参加した時、参加者のFRスタッフの方に誘われて、スタッフミーティングを覗いたのが活動の最初でした。その後2年位経って後スタッフに参加して、現在まで楽しんでいます。

毎年企画されるFR調査では、担当学芸員のレクチャーを聞くのがとても参考になって、調査票を片手に身近な野原、公園などを調査すると、FR登録前からすれば、植物や虫や鳥などを見つける目が深くなって行くのが分かって楽しいです。また、生活文化関係の調査も何気なく見過ごしていた、年中行事、昔の遊び道具、竹を使った伝統の生活道具など教えてもらって調査すると興味が尽きません。これらの調査結果の「フィールドレポーター便り」を時々読んで参考にしています。



赤トンボ調査びわ湖バレイ 2010.8.7

館外のグループとのFR交流会も企画され、県内外の博物館の支援グループや観察クラブで活動されている方々との発表会、イベントは有意義でした。例えば、伊吹資料館、伊丹昆虫館とは館内見学会やびわ湖バレイでのアサギマダラのマーキング会、山門湿原の森、長浜市西浅井町に一泊しての出張交流会（ホタルの観察、菅浦散策、巨木観察）、中池見湿地観察交流会、赤とんぼ調査（夏のびわ湖バレイ、秋の里調査）等々。これらの活動の内容は「フィールドレポーター掲示板」の該当号に報告があります。



「セミ遊び・セミクイズ」

琵琶湖フェスタ 2019.10.19

琵琶湖博物館はリニューアルが完成して展示も新しくなり多くのお客様がお見えになっています。FR活動もスタッフに参加される方が増えて新しいアイデアを取り入れて、調査テーマの企画や交流会が充実した活動になることを期待しています。

## 2. 負うた子に教えられ

ファールブルおばさん

フィールドレポーターになって20年になります。レポーターになりたての頃は、いくら探してもカマキリの卵のうがみつからないとか、ホタルの終見日を記入するために何度も観察に行くのが辛いとか、自分のふがいなさに落ち込むことが度々ありました。ドングリ調査では、いろいろな形のドングリがみつかって楽しかったのですが、種類の見分けは自信がなくて、布谷学芸員さんから届く同定結果のお手紙を心待ちにしていました。観察交流会で人生初のそば打ち体験をしたのも、楽しい思い出です。

率直に言うと、フィールドレポーター調査はいつでも結構大変です。でも、力を入れた分の収穫があるのが面白い点です。例えば、橋の名前調査の時には、集落外れの粗末な橋に橋名板はないけれども、「極楽橋」と名づけられていること（この橋を渡ると、お墓まで一本道なので）を、地区の民俗風習を含めて地域の人に教えてもらいました。調査を通して、自然や社会が見えてくるように思います。

ところで先日のこと。娘が「ベランダのクモが、晴れの時は前の脚を広げているのに、雨の時はいつも下に垂らして狭めている」と言うのです。半信半疑で、写真を撮って比べてみることにしました。



夕立の最中で、クモの巣とクモの脚に水滴がついている。前の脚の角度は  $30^\circ$  くらい。(9月26日)



曇り。クモの前脚の角度は  $60^\circ$  くらい。(9月27日)

このクモの種類はわかりませんが、脚を除いた体長は2 cm強、巣を張って餌を捕るタイプです。確かに、最前脚の左右の幅が雨の時は狭く（写真左）、晴れの時は開いています（写真右）。両方ともクモはじっとして動かない状態だったので、脚の開きの差は行動による違いではなさそうです。“雨の時はいつも”ということから考えると、体に当たる雨の水滴を落とすためかなと思うのですが、どうでしょうか。

妙なところに注目する娘は、フィールドレポーターを継いでくれる存在です。

### 3. フィールドレポーターに参加した思い出

奥村恵津子

ヨシのむこうに道路がつくられた。烏丸半島の姿が現われ、夏にはハスの群生が見えた。

家から半島へは自転車で30分。琵琶湖の水位が-2mの年、半島の湖岸からハス群生の中を歩いた。ゴツゴツした根元の上を、ずっと進んだ。こんな浅いところで、ハスは咲くのだと驚いた。

博物館完成をとてもうれしく思った。多くの講座を拝聴し、湖の成立、湖の生物の多種多様な姿を知り、今までにない学びを味わった。

フィールドレポーターに参加して身近な植物、生物を再確認したことも、新鮮な驚きと喜びだった。

私の一番の思い出は、化石の展示のボランティアに参加したこと。遥か遠い昔の地球に生きた恐竜、生物の姿に、自分のロマンも一緒にこめて、訪れた方に語ったこと。そしてあの時、地震があり、天井に吊るされていた恐竜の骨がユラユラ揺れていた光景は今も鮮明に残っている。

長い年月の経過に、この身も多くの事が出来なくなりました。もう参加することが難しくなりました。終わろうと思います。

多くの事を学び、体験できたことに感謝しています。

2021年3月22日

#### 🔍 交流会回想

烏丸半島の思い出 2017.5.20 フィールドレポーター2017年交流会  
参加者全員で 望遠鏡をもって烏丸半島観察  
「カイツブリに会いに行こう」



妹尾学芸員提供

## 4. 余生の課題は観察

大津市 近江心気郎

人間も喜寿を過ぎると、多少の事で動揺しなくなった。半面、諸事鈍感となり感動するのは稀だ。酷暑、酷寒の時期は自律神経失調のおかげで身の置き所がなくなる。脳の司令塔・海馬の停止へのカウントダウン音がはっきり聞こえる。

何にもしない男の老後は惨めや、何か趣味を持たんとあかんで、と言われ続けてきた。

そんなある時期にフィールドレポーターとの出会いがあった。交流会に参加して、今まで見てきた別の世界を見たような気になった。何であれ集中して行動すれば、結果はそれなりに見えてくる。だから先ず何かをする。会の中で頂いたコーヒーには、体力気力減少メーターを一旦停止する持続性劇物が盛られていたのだろうか？

2015年のタンポポ調査が始まりであった。未経験・高齢者・新人の活動開始。

元々弥次馬根性は人並み以上で好奇心も強い。情けないのは、好奇心の対象となる事象を自ら動いて探すエネルギーの持ち合わせが希薄で、今まで人生大分損をした。難儀なことに「ケツを叩いて」もらわなければ自己発進しにくい、動き出したら止まらない性格というのが自己評価である。その点、フィールドレポーターは「よーいドン」と鉄砲を鳴らしてもらって走り出すものなので、正に自分にピッタリの活動と思えた。期間限定活動もまた相性が良いようである。一つの課題をじっくり長くというのは性格上合わない。まあ短距離競技の感覚で入っていた。その結果、結構走れたし記録も伸びたと自己満足している。たんぼぼ調査が終わった時、自分にはひょっとしたら調査や検討や解析の才能があると思いついた。思いついた。思いついた。

自分で出来ないことは調べて何とかする、それでもだめなら真摯に聞く。「聞くことは知ること也」と教えられてきたが此処にきて実践できる時がある。こういうことが、何の抵抗もなく出来るシステムと環境の整っているのが博物館博物館のフィールドレポーター活動であり、これを利用しない人々は損していると思えるようになった。

続いて始まった“飛び出し坊や”が私の生き方を大いに変えた。テーマ自体がユニークであったし調べてどうなるのといった意見もあった。興味のとらえ方に個人差の大きい課題であったとおもう。

理由は分からないがしっかりハマってしまった。ドツポに入った実感がある。調査時期が終了して、まとめ報告が出た後も終われなかった。特に「滋賀県に何故多いのか」の回答は出なかったことが、いつまでも頭の隅から離れない。とことん納得できるまで調べる気力は無いものの、自身の中で整理ができるまで追いかけてやろうと決めた。じっくり長く取り組む姿勢は今までなかった事なので、自分の体質が変異したのかと愕然とした。交流会で盛られた、妙な薬の効果に振り回されているのか？



掲示板100号編集に当たり第1号から読み直してみる事になった。フィールドレポーター活動の「依存性を伴う薬効」効果は絶大と認識した次第である。この薬効に救われたメンバーが、過去延べにして500人以上になっていることは注目し得る。その人たちの博物館に寄与したものは有形、無形に大きなものであり、大いなる財産であろうと思う。

## 5. 掲示板100号によせて

草津 家猫

フィールドレポーター活動に参加のきっかけは、ヘチマを食べる？という驚きからです。  
20 cm程に育って、まだ繊維の柔らかいヘチマの皮をむいて、田楽・天ぷら・煮物・炒物・味噌汁にして試食したらナスのような食感と味だったことが忘れられません。

兵庫県立人と自然の博物館・江戸東京博物館・日本科学未来館・萩博物館・九州国立博物館で開かれたボランティアメッセに参加して他館の人達と交流したり。



草津市や大阪市立自然史博物館のフェスティバルに参加したり。  
伊丹市昆虫博物館と琵琶湖バレイと一緒にアサギマダラやアキアカネの調査をしたり。



ヤマムガを卵から羽化までの飼育をしたり。  
JICA の研修で博物館にこられた海外の方々とそのお国の料理で交流をしたり。  
昆虫の糞で、ストールの染色をしたり。

琵琶湖博物館から遠い湖北や湖西にはフィールドレポーターの登録者が少なく、活動に興味を持って参加してもらえたらとの思いもあり、伊吹文化資料館や高島市今津町の体験交流センター「ゆめの」でエドヒガンの会と館外で交流会を行いました。

管浦では湖魚料理を楽しみ、蛭と巨木を見たり、福井県の中池見まで自然観察に行き調査以外にも様々な活動に参加し、続けてこられたのは様々な方達との出会いと調査を通して今まで知らなかったことや気にもとめていなかった事などに気づくきっかけとなり、その時々状態を少しでも記録し残しておく事にもなるのかなあ・・・という想いがあるからかもしれません。

## 6. タンポポの頭花基部の幅

2020 年タンポポ調査担当 前田雅子

4月に、2020年タンポポ調査の結果を記した「レポーター便り」をお届けしました。その10ページ目に、カンサイタンポポとセイタカタンポポの見分け方についてのQ&Aがあります。回答の中で、「頭花の基部の幅（総苞部分を横から見た時の幅）が、カンサイタンポポは小花数が少ないために5~7.5mmくらいで細く、セイタカタンポポは6.5~10mmくらいで太い」と書きました。頭花の基部の幅（以下、基部幅）の数値は、私の観察記録（カンサイタンポポ90個体ほど、セイタカタンポポ110個体ほど）を基にしているのですが、ある程度妥当な値と思っています。けれども、レポーター便りを発行して一息ついたところで、小花数が基部幅に対応しているとは言い切れないかも知れないと、急に心配になりました。そこで、カンサイタンポポとセイタカタンポポについて、基部幅と小花数を調べることにしました。

2021年4月下旬~5月初旬に、カンサイタンポポは大津市伊香立~高島市安曇川町の7地点で、セイタカタンポポは大津市真野~高島市今津町の8地点で、1種につき計40頭花を採集しました。基部幅は、小花が水平方向に広がる少し下方の内苞部分をデジタルノギスで測りました（図1）。小花数は、頭花を持ち帰って総苞を外し、小花の下部にある子房を数える方法をとりました。

カンサイタンポポかセイタカタンポポかの判断に悩む個体もありましたが、表1に示す形態特徴の他、周辺に咲いているタンポポの状況をふまえて、種を判断しました。

表1 種の見分けで用いた形態区分

	カンサイタンポポ	セイタカタンポポ
頭花の直径	2、3 cm	3、4 cm
内苞の長さ	12~15 mm	15~20 mm
内苞:外苞	1/2 以下で、1/3 くらい	1/2 よりやや短い
角状突起	目立たない	小突起のあるものも
その他	小花数が少ない	花茎が長く、太い



図1 基部幅の測定場所  
( → ←の部分)



カンサイタンポポ



セイタカタンポポ

計測した80頭花の基部幅と小花数を、図2に示します。

### 【結果1】カンサイタンポポはセイタカタンポポよりも小花数が少なく、基部が細い

1頭花の小花数は、カンサイタンポポが40~99花（平均65花）、セイタカタンポポが59~173花（平均103花）でした。両種ともに、最小値と最大値では3倍近い開きがあり、変異幅の大きい特徴がありました。一方、基部幅は、カンサイタンポポが4.4~6.7mm（平均5.8mm）、セイタカタンポポが6.0~9.6mm（平均7.7mm）でした。この結果から、カンサイタンポポは小花数が少なくて基部が細く、セイタカタンポポは小花数が多くて基部が太いことが、分かりました。

ただし、小花数においても基部幅においても、両種の変異幅に重なりがみられ、この要素だけで種を区別することはできません。

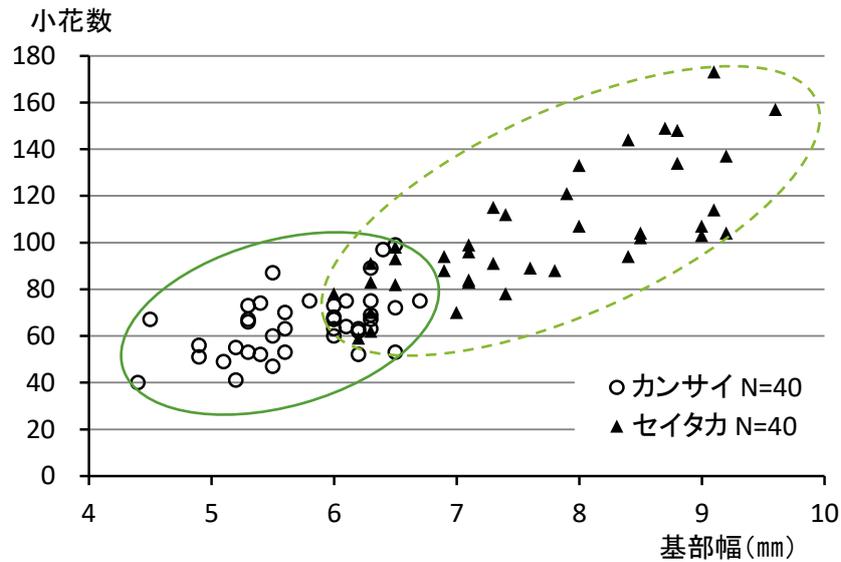


図2. 頭花サンプルの基部幅と小花数

**【結果2】 概括的には、基部幅が太くなるほど小花数が増す**

同じ基部幅でも、小花数に40~50花くらいの開きがありました。基部幅は小花数をダイレクトに表していないことになります。それでも、カンサイタンポポとセイタカタンポポのそれぞれの種において、さらに両種を通じた中においても、基部幅が太くなるほど小花数が増しているのが、図2からわかります。基部幅は小花数に関連しているといえます。

基部幅に対して小花数の幅があったのは、基部幅の測定位置が、花床（かしょう：花茎の先端部で、小花が並んでいるところ）よりも少し上だったことが、影響しているかも知れません。

**〈カンサイタンポポとセイタカタンポポを見分ける時に〉**

両種の見分けは、花の直径・内苞の長さ・内苞長と外苞長の比で区別するとされています。けれども、どの形態要素においても両種の境界ラインにある個体があり、種の判断に困ることがあるのが実状です。そのような時に、基部幅を考慮に加えると、判断しやすくなります。今回の測定結果で、基部幅6mm台は両種の可能性があります。7mm以上はセイタカタンポポと判断してもよさそうです。

もう一つ。図2で、カンサイタンポポ群の散らばりは比較的まとまっているのに対して、セイタカタンポポ群は小さいものから大きいものまでがズラッと並び、集団の変異幅が非常に大きい特徴がありました。採集地点の観察でも、セイタカタンポポの咲く場所では、別種を疑うような株（小型の頭花で内苞長の短いカンサイタンポポ風、2mm弱の角状突起があるケンサキタンポポ風など）がありました。基部幅以外の形態でも、セイタカタンポポは変異幅が大きいようです。

私見ですが、大きいカンサイタンポポか小さいセイタカタンポポかで迷った時は、花茎の根元近くで直径を測ってみてください。花茎の直径が3.0~5.5mmであれば、おそらくセイタカタンポポ（花茎が長くて太い特徴をもつ）です。



綿毛の下に見える花床  
小花のついていた跡が、小さい窪みとして残る。

## 7. 2020年度 秋の赤とんぼ調査実施報告

フィールドレポーター（以下FR）スタッフ 椋島昭紘

10月3日（土）、秋の赤とんぼ調査をしました。場所は天津市伊香立南庄町です。新型コロナウイルスの感染のニュースが気になるなかでしたが、FR 担当金尾学芸員より参加者の募集を、はしかけのグループや博物館の関係者にもPRして頂いたおかげで、今までの最多の参加者、22名の方が新型コロナウイルスの感染対策をして、マスクを着用して参加して下さいました。

薄曇り時々晴れの空模様で、稲刈りの終わった田んぼに爽やかな風が吹いて、気温 25℃、絶好の調査日和でした。この場所の調査は今回で5年目です。

集合時間の13時30分頃から調査開始前に八尋学芸員から、秋のトンボを中心に種類や同定のポイントについて図鑑資料を使って説明していただきました。その後、調査方法と記録用紙の記載の説明をしました。

13時45時頃から融神社参道を出て、田んぼの周りやため池の周辺を調査しました。トンボの飛んでいる様子が昨年に比べて少なく感じました。皆さんの、捕まえたトンボをご家族で図鑑を見ながら観察して記録される様子が散見されたり、熱心に網でトンボを捕獲して記録されたりして、楽しんでいただけた様子が拝見できて良かったです。

約1時間で調査を終わり融神社の境内に集合して、金尾学芸員より集合写真（写真-1）を撮って頂き、終了ミーティングをして15時15分頃に解散しました。

ご参加の皆さんお疲れさまでした。多くの方が参加して頂いたおかげで初めて会う方々とも沢山会話ができて、有意義なFR交流会になりました。

提出して頂いた記録用紙の集計結果は下表の通りです。記録されたトンボの種類は5種類、数の合計は246頭でした。皆さんの努力の成果です。

トンボ種類	記録数 (頭)
アキアカネ	99
ナツアカネ	34
ノシメトンボ	111
マユタテアカネ	1
ヒメアカネ	1

（写真-1）参加者集合写真  
皆さんありがとうございました。



（アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボ写真；椋島撮影）

## 8. 12月中旬琵琶湖、南湖上空に舞うツバメ（？）発見

大津市 椋島昭紘

日時は2020年12月17日午後4時頃、場所は鏡が浜3-1の琵琶湖湖岸です。上空をツバメと思われる数羽の鳥が舞っているのを発見しました。写真を撮りましたが上手くとらえられません。この時期にツバメを見るのは初めてです。

この日は比良山に雪が積もって、湖岸でも薄っすらと雪景色になりました。風がやや強く吹いていたので風に乗って飛んできたのか。翌日は見つけれませんでした。



### 🔍 回想

番（つがい）のイソヒヨドリを見つけた。

草津市 野遊人

2018年5月29日、草津市のde愛ひろば公園付近

公園を散歩中に鳴き声が聞こえるので探すと、

公園近くの住宅の屋根にイソヒヨドリのオスとメスが居たましました。

（写真の左がメス、右がオス）。



イソヒヨドリはスズメ目ツグミ科、生息環境は海岸周辺や河川、ダム湖周辺ですが最近では都市部に生息するようになってきているそうです。

（写真撮影 野遊人）

参考資料；「日本の野鳥」 株式会社 山と溪谷社

## 9. 近江商人のパワーは だろがめ汁

大津市 中野敬二

### 初めに

言葉のインパクトが強く、一度聞いたら忘れられない「だろがめじる」。「だろがめ汁」「だろ亀汁」まではよいとして、{泥亀汁}と漢字で表記されると、いささかおどろおどろしい。

琵琶湖博物館2019年フィールドレポーターで「滋賀の食調査」を行なった(調査参加165人)。ことばの認知度は10%程度であった。食べた経験者はやっと3名。予想を遙かに下回る数字であった。郷土の伝統食なのに、もはや忘れられた存在になってしまったのかと無性に気になった。

更にもう一つ。商人のまちの食べ物で健康食というのが一般認識なら、大阪(上方)や江戸に似たような物があってもよさそうなのにあまり聞かない。その根拠が知りたい。茄子だけでそんなスタミナ食になるのか?泥亀の泥に隠された秘密が絶対に有るはず!これは地元である東近江市の五個荘で聞くしかないを訪ねることにした。

さいわいな事に、観光案内所も兼ねる「プラザ三方よし」で保存活動に携わっている方々とお会いでき、貴重なお話を聞かせていただいた。保存会の活動のひとつに小学校での実践調理講習があった。小学校5年生対象で毎年実施されている。これにより次世代への味の後継者が確実に育っている事を知ってホッとした。よろこばしいことである。

### 泥亀汁とは

市販の料理・調理書で「だろがめ汁」の記載は案外と多い。ネット検索してもいろいろ出てくる。滋賀の郷土料理としての知名度はそこそこあると考えてよい。江戸期から受け継がれ、近江の国・五個荘の郷土料理であり、主に夏の食品で、近江商人の健康食として食され現在に至っている、といった記述は間違いない。しかしながら、書かれたレシピは正確なものが非常に少ないことが分かった。概ね、ナスビの味噌汁に胡麻を加えたものをベースとして紹介しているものが多く、特異性とか、健康食としての存在理由を説明したものは全く無い。

本家・五個荘の方々の説明はこうである。だろがめ汁の主役「スープ(ドロ汁)」は、「胡麻おかゆ」であって、これが滋養強壮と健康食の源なのである。胡麻の栄養価は十分に認知されているし、おかゆが人体に与える栄養効果もいろいろな解説がある。

良い物同士をコラボさせたらどうなるか。割合や量を長い時間かけ改良進化させた地元の人々の工夫が詰まっている。

保存会でも、始まりは茄子の味噌汁であったと考えているようだ。当然茄子はもっと切り込まれていただろう。胡麻の量は経験的に増えていった。何時の頃か、ご飯を炊き込むとおいしさが増すことを知った。おなかの調子が良いと感じられるようになり、調理工程が時代を経て変わって現在に至っている。

ナスビはこの料理では脇役のトッピングであるが、調理の結果その風合いが亀に酷似し、こともあろうに「だろがめ」と呼称される。永年勤続の褒美としてその名が今に残ったという次第。



だろがめ汁



ドロ汁

## 三大素材のコンビネーション

### その1、胡麻

料理の主役である。胡麻量がお米とほぼ同量というのは中途半端な食物でない証である。

高カロリー、高たんぱく質、高脂質、高ミネラル、高ビタミン。

現代社会であれば、如何に有効な成分でも取り過ぎ・過剰と指摘されそうだが、極めて栄養価の不足していた江戸期にあっては強烈な滋養素材であったと考えられる。決して安価な素材ではなかったであろうが、過酷な行商活動に耐えられる最高の素材と分かれば、惜しみなく取り入れ使用され近江商人のパワーになっていたのである。実際食べてみると、美味しいし、とっぴりとした腹持ちになる。

肝機能を向上させ、中性脂肪を減らし、約20種類のアミノ酸を補給し、夏ばて予防のビタミンB6をしっかりと含んだ理にかなった料理である。調理した賄いさんや女将さんが「きばってきーや」と声をかけて送りだし、「ごっつおさん、頑張ってます、」と礼のことばを残し、天秤棒を担いで飛び出していく行商人の姿があっちこちの店で見られたのであろう。

(3代目てんびん坊や、五個荘町パブリックキャラクター)



てんびん坊や

### その2、お米

おかゆとして調理される。

江戸期のお米は超貴重品であった。江戸期、地方庶民の味わえるのは多分“くず米”であろうし明治期以降も戦前までは同様であったと説明があった。納得できる。栄養価的には精米したより栄養素が多く残っている。くず米はむしろ良い素材であったといえる。

更にデンプン質を加熱変形させる「おかゆ」の効用も体得していた。近年になって耳にするようになった「レジスタントスターチ」論である。

デンプンが小腸で消化されず大腸に届くと“難溶性デンプン”となって整腸作用を高めるだけでなく、血中コレステロールの減少、血糖値の急上昇も抑制する効果がある。近年ようやく解明された栄養科学の本質を、長く積み上げた経験で知って、具現化し商家スタッフの体調管理に利用してきた先人の力はすごいと感心させられる。

### その3、茄子

言うまでも無く夏の単色野菜である。夏に実が成るので「夏実」。この「なつみ」が訛って「なすび」になったという説もある。栄養価的にはさほど見るべきものはないとされるが、体温を下げる効果があり、夏場作業をする人には有効な食材である。「秋なすヨメに食わずな」ともいう。おいしいから食べさせない「嫁いびりの諺」とも捉えられているが、秋小口の冷えた日に大切な家の中心であるヨメに食わせて体を冷えさせてはならない、「いたわり」の言葉が正解である。

茄子は比較的身近にある素材で、油との相性がとてもよい。胡麻との相性は言うまでもなく、三素材のひとつとして欠かせない。因みに、近江国には存外地元ブランド茄子が多い。

下田ナス（湖南市下田地区） 杉谷ナス（甲賀市杉谷地区） 高月丸ナス（長浜市高月地区）  
何れも湖東地区とその周辺といってもよい。商売上の交流が有る中で、五個荘の土地に持ち込まれたり、栽培され長く調理に供されてきたのは間違いない。二つ切りにして煮込む調理法は意図した事かどうか分からない。えいやーと大きいままで煮込んだら案外食べやすかった。味を染込ますため、気の利いた賄いさんが縦横に隠し包丁をいれたら亀の甲羅状になった。そんな経緯がうかんでくる。

## どろがめ汁の価値観と近江商人との関係

郷土料理とは、地産の素材を旨く組み合わせて加工し、その風土や嗜好に沿って調理法が考案され、そこそに見栄えよく出来上がっている物との一般認識がある。祭りや祝い事で大勢の人数が集まった場で食される事も多い。素朴な物というイメージもある。

保存会の説明を聞いた時は、そういったイメージとはちょっと違うな、と思った。 先ずは出汁づくり。昆布と削り鰹を大量に使うこと。なんだか一流料亭のお吸い物作りが浮かんできた。田舎の汁物は、良くてダシジャコが普通であって、削り節はともかく昆布は贅沢すぎる。

次は、胡麻。更にはその量。料理において風味付けなど、少量使って大きな仕事する材料とおもいきや、すりごま団子をを食べるような印象だ。一般家庭ではコストが高くて手が出せない。

大量の胡麻すり作業は人件費が掛かり工数の高い作業である。手間が掛かるので、お寺さんなどでは小僧さんの修行の一部になっているくらい。

簡単にこれくらいを上げてみても、利益追求精神の大きい商家の調理物にしては経費のかけすぎと感じる。大阪（上方）、江戸の商家では絶対に出てこないコスト意識なのである。

此处で、近江商人の、“人も自分も周りも全部良し”の精神を改めて感じる。

“三方良し”の達成は、精神論だけでできない。店舗構えの商売でなく、生身の人間が行商活動を行なうのである。エネルギー源がいるであろうスタミナも維持できなければならない。体が資本の商業活動であれば、商家にとって働き手は宝。健康管理は経営方針の柱、と考えたと想像するのは無理があるだろうか。どろがめ汁はそのひとつであって夏場に絶対欠かせないスタミナドリンクと思えば分かりやすい。五個荘であるからこそ出来上がった食べ物であった。

行商に出かける装束も体に気を遣ったファッションであったし、携帯品、特に常備薬などは甲賀忍者顔負けの物が入っていたと聞く。すべて商売繁盛のための先行投資といってしまうまでもだが、人間中心の商業活動に健康管理の精神を取り入れようとする考え方は、五個荘でその基が熟成され、近江の国一円に広がったのではなかろうか。



五個荘の飛出し坊や

現在に至る。健康や安全に気を配るのは全国共通で大差無いはずだが、近江の国の住民はより強い健康増進実行意識があると思える。滋賀県男性の平均寿命全国1位（女性4位）、健康寿命全国2位（女性3位）＊が何を意味するのか。単純に命長らえるのは本位でない、働けないまでも普通に日常活動が出来、家族と一緒に談笑しているうちにふと気がついたら「アラ！死んでやんす＊！」というのを臨終における最高の幸せと考える県民性がある。何でもみんなで作ろうとする集団精神の強い県とも云われている。県に存在する多様な食材と調理品もまた同じだ。近江商人思考の根幹のどこかに関連が有りそうに思えて成らない。

### 最後に

＊2018 滋賀県統計 HP

五個荘は「飛出し坊や」の発祥地でもある。町の各所で説明や案内がある。元気な子どもを安全面で大切に見守ろうという地元の人々の気持ちが坊やの産みの親である。飛出し坊やは近江商人のDNAを真っ当に受け継いでいる。

滋賀県に坊やの数がダントツに多いのは今も謎であるが、謎を解く鍵がひとつ見える。

（写真、調理、筆者）

## 10. 掲示板 100 号までの軌跡～掲示板タイトル総目次～

フィールドレポーター担当学芸員 金尾滋史

フィールドレポーター掲示板は書面上でのフィールドレポーター同士の情報交換の場として、1999 年 4 月に創刊されました。当初はようやくインターネットが普及し始めた頃であり、投稿形式も紙に手書きされたものを入力したり、スキャナで読み込んだりと、様々な工夫をしながら制作をされていたと聞いています。さて、そんな掲示板が創刊 22 年目にしていよいよ迎える記念の 100 号ということで、これまでの掲示板ではどんな情報のやり取りが行われたのか、1 号からまとめてタイトルを列記した総目次を作りました。最初から読んでみると、実に多くの話題がやり取りされていて、その数はなんと 1500 件近くにのぼります。単純にタイトルのみで出てきた単語を分析してみると、生き物の名前が一番多かったものはタンポポの仲間でした。ここにはカンサイタンポポやシロバナタンポポなども含まれていますが、やはり定期的に調査を行っていることもあり、多くの話題にあがっていたのではないかと考えられます。それ以外には、ヘチマ、アキアカネ、カマキリ、セミといった特定の生き物にターゲットを絞って投稿されたテーマが多く見られました。またこの話題の変遷などについては、ゆっくりと分析もしていけたらと思っています。

そして、この総目次を作るにあたり、一件ずつ入力作業を行っていたのですが、その途中で衝撃の事実が発覚しました。なんと、開始早々の 2000 年 12 月に発行された掲示板が、2000 年 10 月に発行された「9 号」と同じく、「9 号」として発刊されているのです!!と、いうことは、正式に言うと、すでに前回で 100 号を迎えていた、ということになります……。とはいえ、すでに発行されてその後 20 年経過しており、遡っての変更は困難ですので、ここは 2000 年 12 月を 9+（プラス）号として位置付けて、今後も発信していけたらと思います。

ここからは、文字も小さく、とてもとても長くなるのですが、創刊号から 100 号までの総目次を紹介します。ぜひ、ご覧いただき、こんな話題のやり取りがあったんだなあ、と思い出を振り返ってみてください。なお、すべての掲示板の記事は琵琶湖博物館ホームページのフィールドレポーターのページで読むことができます。これを機にぜひ過去の記事もご覧になってください。

### フィールドレポーター掲示板 1～100 号 総目次 (2022 年 3 月 20 日作成)

発行年	月	号	ページ	タイトル	発行年	月	号	ページ	タイトル
1999	4	1	1	フィールドレポーター掲示板の開設	1999	4	1	2	交流会にご参加を
1999	4	1	1	滋賀県の方言	1999	6	2	11	今年のタンポポ調査
1999	4	1	1	今年もホタルがでるかな	1999	6	2	12	ヘチマを科学する
1999	4	1	1	スマイレの調査	1999	6	2	12	どじょうはどこに行ったんでしょう
1999	4	1	1	カラスの好きな色	1999	6	2	12	くま?
1999	4	1	1	メダカを探してみませんか	1999	6	2	12	夕暮れ時飛び交うコウモリの群
1999	4	1	2	民間伝承について	1999	6	2	13	バットハウス
1999	4	1	2	フィールドレポーターに参加して	1999	6	2	13	シジウカラの巣立ち
1999	4	1	2	環境問題をテーマに	1999	6	2	13	懲りない失業生活
1999	4	1	2	スズメのおやど?	1999	6	2	14	モズの子育て
1999	4	1	2	モクズガニをさがしています	1999	6	2	14	田んぼのアマサギ
1999	4	1	2	滋賀県の郷土料理	1999	6	2	14	滋賀県のツバメ
1999	4	1	2	季節はずれのもの	1999	6	2	14	フィールドレポーターの参加手続き

発行年	月	号	ページ	タイトル
1999	6	2	15	調査予定を早く知らせて
1999	6	2	15	夜空の調査
1999	10	3	1	蟻地獄がいなくなった
1999	10	3	1	うばゆりの紹介
1999	10	3	2	レストランにおのうみにて
1999	10	3	3	家の周りの雑草
1999	10	3	3	案山子
1999	10	3	4	田んぼの生き物-その後-
1999	10	3	4	お気に入りの観察スポット
1999	10	3	5	魚とりの思い出
1999	10	3	6	ヘチマを科学する
2000	3	4	1	神社の柱に生える野草
2000	3	4	1	天狗なす
2000	3	4	2	今年のタンポポ調査
2000	3	4	3	田んぼは今
2000	3	4	3	カマキリの卵のう
2000	3	4	5	平成環境塾に参加して
2000	3	4	5	ナナホシテントウ虫
2000	5	5	1	巻頭言
2000	5	5	1	タンポポ
2000	5	5	1	ツバメ
2000	5	5	2	七草がゆのほとけのぎはコオニタビラコ
2000	5	5	2	第二名神工事現場の堆肥
2000	5	5	2	安曇川のウグイ漁とウグイ料理に参加して
2000	5	5	2	各地域の「きせつだより」の交流
2000	5	5	3	かもしかの子どもって黒いの？白いの？両方いる
2000	5	5	3	溪流で死んでいた鹿
2000	5	5	3	「松飾り」を調べてみようと思います
2000	5	5	3-4	スマレ類とのお付き合い
2000	5	5	5-6	稲枝駅西側、御当地野鳥事情
2000	7	6	1	巻頭言
2000	7	6	1	つばめのヒナの声はいつ頃聞こえるのか
2000	7	6	2	キツネ、タヌキとの遭遇、事故報告
2000	7	6	2	江戸の花見を彦根でする話
2000	7	6	3-4	田んぼの生き物調査
2000	7	6	4	カブトエビ、ホウネンエビ、カイエビ見〜つけ
2000	7	6	4	カマキリの誕生を待っています。
2000	7	6	5	雀の学校の給食時間
2000	7	6	6	五個荘からレポート
2000	7	6	7	専門講座（フナズシを作ってみよう）に参加して
2000	7	6	8	おたまじゃくしはどこに？
2000	7	6	8	クローバーとレンゲの花
2000	7	6	9	琵琶湖岸のトンビについて
2000	7	6	9	ヒヨの抱卵
2000	7	6	10	職場のわか田んぼには一ねんえびがいるらしい
2000	7	6	10	皆さん、投稿ありがとうございます
2000	8	7	1	巻頭言
2000	8	7	2-3	1日でハス、アユandホウネンエビetc.
2000	8	7	4	琵琶湖の外來魚について
2000	8	7	5	くものぬけがらを見た
2000	8	7	6	掲示板ありがとうございます
2000	8	7	6	えっ、私って!?
2000	8	7	7	掲示板に再挑戦？
2000	8	7	7	井戸から泥水？
2000	8	7	8	カマキリの卵囊-その結果-
2000	8	7	8	来年はホタルが舞うか？
2000	8	7	9	本当だったハンターズ ストーリー
2000	8	7	9	水色のあじさいはどこへ
2000	8	7	10	ハンターズ ストーリーの続編
2000	8	7	11	カマキリの羽化はまだ？
2000	8	7	12	プランターで水稲自作農
2000	8	7	12	「プランターで水稲自作農」へのコメント
2000	9	8	1	巻頭言
2000	9	8	2	田んぼに貝が全くいない！

発行年	月	号	ページ	タイトル
2000	9	8	3	おたまじゃくしはどこに？
2000	9	8	3	伯楽常にあるといえど
2000	9	8	4	続 プランターで水稲自作農
2000	9	8	4	コメント
2000	9	8	5	「除草剤の使用は最小限に」（田んぼの生き物調査を終えて思うこと）
2000	9	8	6	カマキリの羽化-続
2000	9	8	6	これは何者でしょうか
2000	9	8	6	コメント
2000	9	8	7	わが家を訪れる蝶たち
2000	9	8	8	タイトルなし
2000	9	8	9	ブナの森を調べよう
2000	9	8	10	よだれ垂らし続けて40年
2000	9	8	10	コメント
2000	9	8	11	フナズシを作ってみよう 第二回目の作業に加
2000	9	8	12	カワウについて
2000	9	8	12	カワウについて回答
2000	9	8	13	ドングリ
2000	9	8	13	隻腕のカマキリ
2000	9	8	14	[提案] フィールドレポーターの交流について
2000	9	8	14	回答
2000	10	9	1	巻頭言
2000	10	9	2	これは何ですか？
2000	10	9	2	回答
2000	10	9	3-4	「除草剤の使用は最小限に」（田んぼの生き物調査を終えて思うこと）
2000	10	9	5	～霞ヶ浦は今～について
2000	10	9	5	学芸員さんからの回答
2000	10	9	6	生物の学名、命名法について
2000	10	9	6	学芸員さんからの回答
2000	10	9	7	タンカイザリガニにエールを
2000	10	9	7-8	学芸員さんからの回答
2000	10	9	9	いたちのことで教えてください
2000	10	9	9	学芸員さんからの回答
2000	10	9	10	田んぼ調査を終えての感想
2000	10	9	11	題名なし
2000	10	9	11	大発見のドングリ調査
2000	10	9	12	掲示板4号を見て
2000	10	9	12	続掲示板4号を見て
2000	10	9	13-14	鳥の羽毛にご注目あれ！
2000	10	9	14	学芸員さんからの回答
2000	10	9	15	こんな所にカマキリの卵が
2000	10	9	16	羽の無いカマキリ
2000	10	9	17	花びらの異常性
2000	10	9	18	秋の日 比良さんに登る、閑話一題
2000	10	9	19	フィールドレポータースタッフからの一言
2000	12	9?	1	巻頭言
2000	12	9?	2	カマキリとハリガネムシ
2000	12	9?	3-4	飼育カマキリの産卵
2000	12	9?	5	超ジャンボ根切虫
2000	12	9?	6-7	これは本当にオオカミでしょうか
2000	12	9?	8	やっと参加できました。
2000	12	9?	8	いろいろ教えてください。
2000	12	9?	8	濡れ縁のべたべたについて
2000	12	9?	9	ついに我が家にも未確認生物現る
2000	12	9?	10-11	学芸員さんからの回答
2000	12	9?	11	哀れな子狸を助けてはやれないのでしょうか
2000	12	9?	12-13	ガラクタ工作3連発
2000	12	9?	14-15	ドングリで食品を作ってみました。
2000	12	9?	16	いろいろ教えてください。
2000	12	9?	16	学芸員さんからの回答
2000	12	9?	16	フィールドレポータースタッフからの一言
2001	1	10	1	巻頭言
2001	1	10	2	湖北町野鳥センターに見る、聞く、
2001	1	10	3	飼育カマキリのその後

発行年	月	号	ページ	タイトル
2001	1	10	4	ドングリのロマン (?)
2001	1	10	5	種類を教えてください
2001	1	10	5	学芸員さんより一言
2001	1	10	6	樹の枝の扱いについて
2001	1	10	7	カナダの木の枝と学名の件
2001	1	10	7	「ついに我が家にも未確認生物現る」を見て
2001	1	10	8	【鮎ずしを作ってみよう】第三回
2001	1	10	9	超ジャンボ根切り虫 - 続 -
2001	3	11	1	巻頭言
2001	3	11	2	いろいろ教えてください。
2001	3	11	2	What どう云う doing?
2001	3	11	3-4	学芸員さんからの回答
2001	3	11	5	百舌の枝さし
2001	3	11	6	学芸員さんからの回答
2001	3	11	7	専門家からの回答 (哀れな子狸を助けてやれないのでしょうか)
2001	3	11	7	楽しかったドングリ調査
2001	3	11	8	土地の所有権とサインポスト
2001	3	11	9	お土産のウンチについて
2001	3	11	10	専門家からの回答
2001	3	11	11	「鮎ずし」の昆布の使い方を教えてください
2001	3	11	11-12	回答
2001	3	11	12	ちょっと気になる直売品
2001	3	11	13	専門家より アライグマについてちょっと一言
2001	3	11	14-16	飼育カマキリの越冬
2001	5	12	1	巻頭言
2001	5	12	2	蒲 (がま)
2001	5	12	3	ハチのたつ巻
2001	5	12	3	ヤマカガシについて
2001	5	12	4	貝エビ生まれるかな?
2001	5	12	4	おーい、カッコウやいっ
2001	5	12	5	さっそく試しました
2001	5	12	5	花粉
2001	5	12	6	信長も見たか? 白ばなのタンポポ
2001	5	12	7	一本の桜に咲く花の数は何個でしょうか
2001	5	12	8	花びらの異常性 - 続 (本年の調査結果)
2001	5	12	9	この実なんの実さになる実
2001	5	12	10	カマキリの雌雄判別法
2001	5	12	11	クビキリギス
2001	5	12	12-13	例えば、スズメやヒバリがいなくなる!
2001	5	12	14-15	過程で出来る納豆製造法
2001	5	12	15	タマムシ象眼の樹を見つめました
2001	5	12	16	ケナフにこだわりのある方へ
2001	5	12	17	ドングリの花&その他のいろいろ発見ツアーに行っ
2001	5	12	18	じんじゃまでがんばってあるいた
2001	5	12	19	山のぼりががんばったよ
2001	5	12	20	へちまクラブだより (その2)
2001	5	12	20	へちま委員長にご挨拶
2001	5	12	20	編集部からのおしらせ
2001	5	12	21	フィールドレポータースタッフからの一言
2001	5	12	21	フィールドレポータースタッフに学ぶ
2001	6	13	1	巻頭言
2001	6	13	2	フィールドレポータースタッフからの一言
2001	6	13	3	ナマズの産卵
2001	6	13	4	ムクロジの樹があります。
2001	6	13	5	ムクロジを見てきました
2001	6	13	5-8	ドングリの花
2001	6	13	9	テレビにです
2001	6	13	10	「この実なんの実さになる実」のNさんへ
2001	6	13	10	今年も聞こえた、カッコウの声
2001	6	13	11	古屋のヤマジノホトトギス その後
2001	6	13	12	キクザキイチゲ
2001	6	13	13	ヤマジノホトトギス (と思われる) の油点について

発行年	月	号	ページ	タイトル
2001	6	13	14	朽木村古屋便り (ヤマジノホトトギス その3)
2001	6	13	15	今年はカラ梅雨?
2001	6	13	16	植物同士が大戦争。応援の方法を教えてください
2001	6	13	17	メトロ彦根のサバース情報 その1
2001	6	13	18	私の知っている蒲 (がま) 生育地
2001	6	13	19	蒲を愛するがまじんさんへ
2001	6	13	19	へちまの芽が出ません
2001	6	13	20	へちまのたね
2001	6	13	20	へちまを植えたよ
2001	6	13	21	掲示板ありがとうございます
2001	6	13	21	へちまの葉が出ました
2001	6	13	22	へちまクラブだより (その3)
2001	8	14	1	巻頭言
2001	8	14	2	鳥の嗅覚について
2001	8	14	3-5	カマキリのふ化
2001	8	14	6	蛭
2001	8	14	6	梅雨時のダニ退治法情報
2001	8	14	7	じゃがいもにトマトがなった
2001	8	14	7	マテバジイの花満開
2001	8	14	8	背泳ぎと背歩き
2001	8	14	9	(続) 例えばスズメやヒバリがいなくなる!
2001	8	14	10-12	続 ケナフについて
2001	8	14	13	何焼きのちょうし?
2001	8	14	14	何焼きのちょうし? / 続き
2001	8	14	15	きになる実のその後
2001	8	14	16	変な物の話
2001	8	14	17	調べてみませんか、湖畔のアカマツのランキング
2001	8	14	18	困った 店子
2001	8	14	19	ムクロジを見ました
2001	8	14	19	フィールドレポータースタッフから
2001	8	14	20	へちまクラブだより (その4)
2001	8	14	20	葉っぱをかじったのは誰? + 編集部より
2001	8	14	21	へちま植え変えましたandへちま化粧水の作り方
2001	8	14	21	へちまの育成について
2001	8	14	22	うっかり幸子に育てられた糸瓜君
2001	8	14	23	掲示板13号ありがとうございます
2001	8	14	23	フィールドレポーター調査
2001	8	14	24	フィールドレポータースタッフからの一言
2001	10	15	1	巻頭言
2001	10	15	2	高温の証し 畑の中にも
2001	10	15	2	へちまの成長
2001	10	15	3	へちまの状況 第2信
2001	10	15	4	へちまのその後、その他
2001	10	15	5	へちまが豊作
2001	10	15	6-7	カマキリの交尾
2001	10	15	8	背泳ぎと背歩き一現
2001	10	15	8	たなごとあかざ
2001	10	15	9	飛ばない軽鴨
2001	10	15	10-11	適度にハゲた田上山
2001	10	15	12	C展 展示パネルの様子うかがい
2001	10	15	13	C展 展示パネル その2
2001	10	15	14	フィールドレポーター交流会に参加して。
2001	10	15	14	ヤマジノホトトギス その後
2001	10	15	15	糸瓜の蔓に瓢箪?
2001	10	15	16	へちまクラブだより (その5)
2001	10	15	16-17	編集部より
2001	10	15	18	フィールドレポータースタッフからの一言
2001	12	16	1	巻頭言
2001	12	16	2-4	秋の七草クイズ
2001	12	16	5	めだかが生まれました
2001	12	16	5	カメムシ
2001	12	16	6	掲示板15号有り難うございました
2001	12	16	6	へちまたわしが出来た
2001	12	16	7	鳥の観察を今回やってみて
2001	12	16	7	へちまたわしは難しい

発行年	月	号	ページ	タイトル
2001	12	16	8	花びらの異常性-続2
2001	12	16	9-10	稲枝駅西側より 雑件
2001	12	16	11	わが家とご近所の脊椎動物おぼえ書き
2001	12	16	12-13	樹の切株を調べてみました
2001	12	16	14	哺乳動物調査への協力お願い
2001	12	16	15	フィールドレポータースタッフからの一言
2002	1	17	1	巻頭言
2002	1	17	2-5	オオカマキリの脱皮と羽化
2002	1	17	6	もうフキノトウがでてました
2002	1	17	6	ヘチマエレジー
2002	1	17	7	ヘチマ化粧水とタワシできました
2002	1	17	7	小さいけど、ヘチマのタワシできました
2002	1	17	8	ヘチマについて
2002	1	17	9-10	自宅の近くで見られる野鳥
2002	1	17	11	オシドリを見ました
2002	1	17	12	カラスに会いたい
2002	1	17	12	肥満 (!) スズメ
2002	1	17	13	野性動物サル
2002	1	17	13	鳥の調査を省みて
2002	1	17	14	納豆の次に
2002	1	17	15-16	カマキリの寒中ふ化
2002	1	17	17	フィールドレポータースタッフからの一言
2002	4	18	1	巻頭言
2002	4	18	2	モロコはどこへいったのでしょうか
2002	4	18	2	山茶花にメジロ飛来
2002	4	18	3	冬場のカイツブリは池の散策から
2002	4	18	3	湖北町の野鳥センターへいったよ
2002	4	18	4	ダイサギorチュウサギ
2002	4	18	5	ヒヨドリ
2002	4	18	5	カイツブリの童歌聞いたことありませんか？
2002	4	18	6	“つばめ”が！
2002	4	18	6	カワウと新緑
2002	4	18	7	私のヘチマは
2002	4	18	7	ナマズの季節到来
2002	4	18	8-9	教えてください
2002	4	18	10	適度にハゲた田上山／続
2002	4	18	10	カマキリの寒中ふ化／続
2002	4	18	11	背泳ぎと背歩き-続2
2002	4	18	11	花びらの異常性-続3
2002	4	18	12	春を彩る花めぐり
2002	4	18	13	わが雑業園に異変
2002	4	18	14	ちょっと良い本
2002	4	18	15	掲示板への質問に対して
2002	4	18	15	学芸員さんからの回答
2002	4	18	16	学芸員さんからの回答
2002	4	18	17	学芸員さんからの回答
2002	4	18	18	学芸員さんからの回答
2002	4	18	19	学芸員さんからの回答
2002	4	18	20	学芸員さんからの回答
2002	4	18	21	学芸員さんからの回答
2002	4	18	22	学芸員さんからの回答
2002	4	18	23	学芸員さんからの回答
2002	4	18	24	学芸員さんからの回答
2002	4	18	25-26	ヘチマクラブだより 2002年度1号
2002	4	18	27	フィールドレポータースタッフからの一言
2002	6	19	1	巻頭言
2002	6	19	2	昆虫の八尋さん
2002	6	19	3	タンポポと散歩
2002	6	19	4	タンポポの探求
2002	6	19	4	タンポポも今年は早かった。
2002	6	19	5	タンポポの探求
2002	6	19	5	カンサイタンポポの葉いったいどっちなの
2002	6	19	6	タンポポの調査
2002	6	19	7	風に吹かれてさわやか巡り
2002	6	19	8	初めて会いました森の貴婦人 ヤマシャクヤク

発行年	月	号	ページ	タイトル
2002	6	19	9	花の“赤坂山”色とりどり
2002	6	19	10	?年後にはカタクリとササユリが見られるかも？
2002	6	19	11	カタクリの親はどこへ？
2002	6	19	12	名前が判りません知ってたら教えて下さい。
2002	6	19	12	このお魚の名前なに？金魚育ててみませんか？
2002	6	19	13	朝の散歩で見つけたもの
2002	6	19	14	サカダチゴミシムシダマシ
2002	6	19	15	初ホタル
2002	6	19	15	天吉寺山の怪
2002	6	19	16	アスバラガスは切られても伸びる
2002	6	19	16	カマキリの寒中ふ化／続続
2002	6	19	17	教えてください
2002	6	19	18	ヘチマクラブだより 2002年度2号 水無月のヘチマ
2002	6	19	18-19	ヘチマクラブだより 2002年度2号 ヘチマ情報あれこれ
2002	6	19	20	フィールドレポータースタッフからの一言
2002	8	20	1	巻頭言
2002	8	20	2-3	学芸員紹介シリーズ(2) 「象化石の高橋さん」
2002	8	20	4	ため池観察交流会
2002	8	20	5	ため池のサカナけんきゅう
2002	8	20	5	ため池の研究した
2002	8	20	6	ため池調査-私の場合-
2002	8	20	7	ため池を訪ねて
2002	8	20	8	林照寺川にホタルは何匹いるか
2002	8	20	9	沢山の実をつける桜の種類(木の名前)を教えてください。
2002	8	20	10	ネヴァーエンディング納豆ストーリー
2002	8	20	11	空に向かってヨーイ ドン！
2002	8	20	12	ヨコヅナサシガメ
2002	8	20	13	カッコウ
2002	8	20	13	スベリヒユ
2002	8	20	14	植物の標本として必要な用件は何ですか
2002	8	20	14	カタバミのシャクトリガの幼虫
2002	8	20	15	蚤の思い出／終戦記念日を前に
2002	8	20	16	ヘチマ
2002	8	20	16	廃川後の草津川底の怪？
2002	8	20	17	質問です。
2002	8	20	18-19	ヘチマクラブだより 2002年度3号
2002	8	20	20	フィールドレポータースタッフからの一言
2002	9	21	1	巻頭言
2002	9	21	2-3	学芸員紹介シリーズ(3) 奥の深い“人”布谷先生
2002	9	21	4	学芸員さんからの回答 陸生昆虫担当 八尋克郎
2002	9	21	5	へちまクラブだより
2002	9	21	6	へちま交流会in宮荘
2002	9	21	7	へちま交流会のお礼
2002	9	21	8	甲賀町のため池の現況
2002	9	21	8	リサイクル化(リユース)について
2002	9	21	9	近くのため池観察
2002	9	21	10	ため池の観察
2002	9	21	11	知りたかった虫の名は、アオマツムシ
2002	9	21	11	アオマツムシで感じた事
2002	9	21	12	なつ休み何かいもはくぶつかんに行ったよ
2002	9	21	12	洛北高野川で初めて見た鳥は
2002	9	21	13	がまじんさんへ
2002	9	21	14	キノコのオブジェ作りませんか？
2002	9	21	15	キノコで遊ぼう[2]
2002	9	21	16	大吉寺跡の手水鉢の『いもり』確認
2002	9	21	17	ケミドラムの哲人アマガエル
2002	9	21	18-19	フェネストリアorトリトープス
2002	9	21	20-21	内モンゴール珍道中
2002	9	21	22	釣り人 と とんび
2002	9	21	23	フィールドレポータースタッフからの一言
2002	12	22	1	巻頭言
2002	12	22	2-3	学芸員紹介シリーズ(4) [ようこそ琵琶湖へ] グライガー・マーク・ジョセフさん

発行年	月	号	ページ	タイトル
2002	12	22	4	コウガイビル
2002	12	22	5	外来魚の放流・再放流の反撃を
2002	12	22	6	続 ヨコヅナサシガメ
2002	12	22	6	へちまクラブだより10
2002	12	22	7	へちま、今日このごろ
2002	12	22	7	へちまの利用法
2002	12	22	8	回答：沢山の実をつける桜の種類（木の名前）を教えてください
2002	12	22	8	巨大生物の実測に成功
2002	12	22	9	お知らせ
2002	12	22	9	コウガイビル 追記
2002	12	22	10	知内川のピワマスと小鳥
2002	12	22	11	清水国明氏の提訴に対し、反論できる正しい知識
2002	12	22	12	シグナル クレイフィッシュって何ですか
2002	12	22	12	レンジャクを見ました。
2002	12	22	13	飽きもせず、懲りもせず、変なことをしています
2002	12	22	14-16	人と自然の会主催のボランティアメッセで得たも
2002	12	22	17	兵庫博、ボランティア、メッセに参加して、
2002	12	22	17	三田市ボランティアメッセに参加して
2002	12	22	18	フィールドレポータースタッフからの一言
2003	1	23	1	巻頭言
2003	1	23	2-3	学芸員紹介シリーズ(5) 亀田佳代子さん
2003	1	23	4-5	わが家をめぐる昆虫
2003	1	23	5	アナグマについて良い駆除の方法があれば教えてください。
2003	1	23	6	シロバナタンポポについて
2003	1	23	6	シロバナタンポポ
2003	1	23	7	私の出会ったシロバナタンポポ
2003	1	23	8	シロバナタンポポ
2003	1	23	8	シロバナタンポポについて
2003	1	23	9	シロバナタンポポについて
2003	1	23	9	シロバナタンポポについて
2003	1	23	10	しろばなたんぽぽについて
2003	1	23	10	シロバナタンポポについて
2003	1	23	11	シロバナタンポポ
2003	1	23	11	シロバナタンポポ
2003	1	23	12	シロバナタンポポについて
2003	1	23	13	シロバナタンポポについて
2003	1	23	14	シロバナタンポポの情報ありがとうございます
2003	1	23	15	フィールドレポータースタッフからの一言
2003	3	24	1	巻頭言
2003	3	24	2-3	学芸員紹介シリーズ(4) [「古墳と城跡」はいつも私の研究のベース] 用田政晴さん (考古学)
2003	3	24	4	学芸員さんからの回答
2003	3	24	5	伊吹山文化資料館往訪記
2003	3	24	6	伊吹山山麓史跡
2003	3	24	7	伊吹山文化資料館を中心とした周辺地域の見所見て歩記
2003	3	24	8	伊吹山文化資料館見学会に参加して
2003	3	24	9	伊吹山文化資料館見学会に参加して
2003	3	24	10	伊吹山文化資料館をたずねて
2003	3	24	11	ブラックバスとブルーギル
2003	3	24	12	稲枝駅西側、ご当地鳥情報
2003	3	24	13	「クズ」からのゲーム
2003	3	24	14	我が家にもコウガイビル
2003	3	24	15	鳥の観察記録
2003	3	24	16	幾つかの雑件
2003	3	24	17	冊子にしました
2003	3	24	18	フィールドレポータースタッフからの一言
2003	5	25	1	巻頭言
2003	5	25	2-3	学芸員紹介シリーズ(7) [琵琶湖と集水域の人間の暮らしと水の関わり] 牧野厚司さん (地域社会)
2003	5	25	4	「フィールドレポーター掲示板」に関するアンケート回答と今後について
2003	5	25	5	「庭を訪れた蝶の調査」中間結果

発行年	月	号	ページ	タイトル
2003	5	25	6	春型のアゲハ
2003	5	25	7	蝶の調査に一寸したアイデア
2003	5	25	8	思い出の中のアゲハ(ナミアゲハ)
2003	5	25	8	蝶々の標本採取はむずかしい???
2003	5	25	9	どこにでもある風景の簡単な報告 その1
2003	5	25	10	マキノにおける立ち枯れに着いて簡単な報告
2003	5	25	11	どこにでもある風景の簡単な報告 その2
2003	5	25	12	大吉寺跡の手水鉢の『いもり』再び確認
2003	5	25	13	ここほれワンワン
2003	5	25	13	近ごろの子供達
2003	5	25	14	わが家の桜の紹介
2003	5	25	15	シロバナタンポポ雑感
2003	5	25	16	名前を教えてください
2003	5	25	16	学芸員さんからの回答
2003	5	25	17	旧草津川と身近な畑を散歩
2003	5	25	18-19	気になる樹 その1 ソメイヨシノ
2003	5	25	20-21	「畑の棚田」の田植え
2003	5	25	22	春休みの一日、孫たちと
2003	5	25	23	フィールドレポータースタッフからの一言
2003	7	26	1	巻頭言
2003	7	26	2	ガマ調査速報7.19
2003	7	26	2	雨の中の観察会
2003	7	26	4	蒲の観察会に参加して
2003	7	26	5	「庭を訪れた蝶の調査」中間結果-3
2003	7	26	6	オサムシのトラップゲーム、その他
2003	7	26	7-8	学芸員さんからの回答
2003	7	26	9	このごろ道端ではやるもの
2003	7	26	10	気になる樹 その2 タラノキ
2003	7	26	11	子供の日のひととき
2003	7	26	12	タンポポについて教えてください
2003	7	26	13	モドギネスについて
2003	7	26	14	標高千メートルの県境尾根に産卵するヒキガエルを見た
2003	7	26	15-16	シロバナタンポポその後
2003	7	26	17	どこにでもある風景の簡単な報告 その3
2003	7	26	18	どこにでもある風景の簡単な報告 その4
2003	7	26	19	変なよろよろ無視
2003	7	26	20	この芸術的な葉の巻き方は、誰がしたの？
2003	7	26	20	ガマに出会えた
2003	7	26	21	フィールドレポーターからの一言
2003	9	27	1	巻頭言
2003	9	27	2	フィールドレポーター専用eメールアドレスが開
2003	9	27	3	「庭を訪れた蝶の調査」終了
2003	9	27	4-5	ガマ調査速報 9.20
2003	9	27	6	フィールドレポーター交流特集
2003	9	27	6	フィールドレポーター交流会に参加して
2003	9	27	7	館外 交流会に参加して(8/23バスにて)
2003	9	27	8	伊吹山文化資料館へ行って
2003	9	27	9	伊吹山文化資料館の交流会に参加して
2003	9	27	10	黄色い首の馬の名は？
2003	9	27	11	学芸員さんからの回答
2003	9	27	12	気になる樹 その2 タラノキ
2003	9	27	13	学芸員さんからの回答
2003	9	27	14-15	今年はコウガイビルの当たり年？
2003	9	27	16	学芸員さんからの回答
2003	9	27	17	我が家にも金色のジンガサハムシが
2003	9	27	18	2003年 今年の稲作は
2003	9	27	19	乾電池が再生出来ました
2003	9	27	20	有意義な一日：「伊吹山文化資料館との交流会」に参加して
2003	9	27	21	興味を持つ
2003	9	27	22	フィールドレポータースタッフからの一言
2003	12	28	1	フィールドレポーター掲示板
2003	12	28	2-4	学芸員紹介シリーズ(8)「趣味の延長が仕事になった人間」中井克樹さん(魚類学生態学)

発行年	月	号	ページ	タイトル
2003	12	28	5	あなたのお名前何て言うの
2003	12	28	6-8	学芸員さんからの回答
2003	12	28	9	蝶の調査で、一研究者と遭遇
2003	12	28	10-11	伊吹山資料館を見学して
2003	12	28	12	滋賀県に外来種のガマはないか
2003	12	28	13	赤米の観察
2003	12	28	14-15	道路工事現場の鉱物について
2003	12	28	16-17	どこにでもある風景の簡単な報告 その5
2003	12	28	17	今年もへちまで
2003	12	28	18-19	「ひととはくフェスティバル'03」に参加して
2003	12	28	20	フィールドレポータースタッフから
2004	2	29	1	今年もよろしくお願いたします。
2004	2	29	2-4	学芸員紹介シリーズ(9)野崎信宏さん(河川工
2004	2	29	5	今ならわかる、ガマの自生地
2004	2	29	6-9	学芸員さんからの回答
2004	2	29	9	フィールドレポータースタッフからの回答
2004	2	29	10-11	どこにでもある風景の簡単な報告 その6
2004	2	29	12	ヒシの実を食べました
2004	2	29	13	シマヘビに噛まれました
2004	2	29	14	フィールドレポータースタッフからの一言
2004	4	30	1	巻頭言
2004	4	30	2	「旧人」からのご挨拶
2004	4	30	2	「新人」のご挨拶
2004	4	30	3-6	学芸員紹介シリーズ(10)「ビワマスとサツキマス(アマゴ)の関係」を研究 桑原 雅之さん
2004	4	30	7-11	学芸員さんからの回答
2004	4	30	12	ヨシガリについて
2004	4	30	12	ヨシガリの事
2004	4	30	13	琵琶湖内湖に興味をもち始めた、
2004	4	30	14	ボランティアメッセ2004「つながりあう未来のミュージアム」
2004	4	30	15	2004年度フィールドレポーター活動計画
2004	4	30	15	フィールドレポーター交流会のお知らせ
2004	4	30	16	フィールドレポータースタッフからの一言
2004	7	31	1	ボランティアメッセ2004に参加して
2004	7	31	2-6	学芸員紹介シリーズ(11) 牧野久美さん
2004	7	31	7	東京科学未来館に行ってきた
2004	7	31	8-9	ボランティアメッセ2004参加報告
2004	7	31	10-11	ボランティアメッセ2004参加報告2004に参加して
2004	7	31	12	「蝶の調査」その後
2004	7	31	13	年中行事調査の締め切りが迫りました
2004	7	31	14	白花ホトケノザは突然変異?
2004	7	31	14	ハイノキ科 クロバイ
2004	7	31	15	平地のヒトツバ Tongue fern(fern:しだ)
2004	7	31	16	旧草津川廃川後の調査をなぜ行わないのか?
2004	7	31	16	旧草津川について思うこと
2004	7	31	17	フィールドレポーター7月・8月・9月の予定をお知らせ
2004	7	31	17	フィールドレポータースタッフからの一言
2004	9	32	1	C 展示室フィールドレポーターコーナーを一新
2004	9	32	2-5	学芸員紹介シリーズ(12) 戸田 孝さん(地球物理
2004	9	32	6-7	ガマ調査続報
2004	9	32	8-9	ガマの花にきた、傷ついたブイブイ
2004	9	32	10	セミの調査に思うこと
2004	9	32	11	愛知川の下流は「鯉」のこ「恋路」?
2004	9	32	12	聞こえて来ませんか「祇園精舎の鐘の声」?
2004	9	32	13	後日談
2004	9	32	14	フィールドレポーター9月・10月の予定をお知らせ
2004	9	32	14	フィールドレポータースタッフからの一言
2004	11	33	1	今津での研修会
2004	11	33	2	わが家・わが地域の年中行事のまとめ経過報告
2004	11	33	3-5	研修会の報告ーまさに、フィールドが博物館ー
2004	11	33	6	葉タバコ乾燥小屋の思い出
2004	11	33	7	秋の一日湖西今津の里山を訪れて
2004	11	33	8	秋のFR研修会に参加して

発行年	月	号	ページ	タイトル
2004	11	33	9	交流会に参加して
2004	11	33	9	湖西の交流会
2004	11	33	10	いまづ自然観察クラブの方との研究会に参加して
2004	11	33	11	農業も面白いですよ
2004	11	33	11	タンポボのこと
2004	11	33	12	2004へちま情報
2004	11	33	12	無題
2004	11	33	13	ウンチについて熱く語って良いですか?その1
2004	11	33	14	近江流 屋上緑化工法
2004	11	33	15	靴下を履いたへちま
2004	11	33	16	フィールドレポーター11月・12月の予定をお知らせ
2004	11	33	16	フィールドレポータースタッフから一言
2005	2	34	1-2	ブランクトンギャラリー展の裏話
2005	2	34	2	次回フィールドレポーター調査「エドヒガン」の調査(仮称)を予定しています
2005	2	34	2-5	学芸員紹介シリーズ(13) 前畑政善さん
2005	2	34	6-7	夏のセミ調査集計結果報告
2005	2	34	8	野生生物の予知能力調査-1 中間結果
2005	2	34	9	シロバナタンポボはいつ咲く?
2005	2	34	10-11	三つの〇〇葉物語
2005	2	34	12	どこにでもある風景の簡単な報告 その7
2005	2	34	13	クリスマスリースの植物について
2005	2	34	13-14	樹齢1年、巨大の素
2005	2	34	14	比叡山における「えいざん」すみれの分布調査
2005	2	34	15	フィールドレポーター2月・3月・4月の予定
2005	2	34	15	フィールドレポータースタッフから一言
2005	4	35	1	エドヒガンを探してみよう
2005	4	35	2	フィールド・レポーター交流会開催の予告
2005	4	35	2	フィールド・レポーター調査テーマ募集
2005	4	35	3	野生生物の予知能力調査-1 中間結果-2
2005	4	35	4	タンポボ その1《シロバナ情報ありがとうございます》
2005	4	35	4-5	タンポボ その2《タンポボ調査・近畿2005が始まりました》
2005	4	35	6	エドヒガンは見つけられるだろうか?
2005	4	35	7	これはエドヒガン桜か?
2005	4	35	8	フィールドレポーターを草の根から
2005	4	35	9	タンポボと散歩自然観察
2005	4	35	10	今津のざぜん草、今が見頃
2005	4	35	11	カマキリの卵のう、今年は高い
2005	4	35	12	ロードキルの記録を残すことを考えてみませんか
2005	4	35	13	世界一の巨木を育てたい
2005	4	35	14-16	根は勤勉、正直です
2005	4	35	17	自然に関する常識を見直してみませんか
2005	4	35	18	フィールドレポーター4月・5月・6月予定
2005	4	35	18	フィールド・レポーターから一言
2005	7	36	1	「はじめに」一言
2005	7	36	2-5	学芸員紹介シリーズ(14)「単細胞的わくわくする・ミクロな世界」 楠岡 泰さん
2005	7	36	6-7	フィールドレポーター交流会(5月29日開催)の報告
2005	7	36	8-9	エドヒガン[2005年第1回調査]中間報告
2005	7	36	10-11	「我が家・地域の年中行事調査」のまとめをして
2005	7	36	12-13	新旭町日爪北谷榎物
2005	7	36	14	フィールドレポーターの調査テーマの希望について
2005	7	36	14	竹の皮(フィールドレポーター調査テーマ)
2005	7	36	15-16	山で遭遇する危険な動物(クマ・スズメバチ・マムシ・ヤマカガシ・ヒル)に関する調査・報告(第1回)
2005	7	36	17	3年かかって咲いたスマイル
2005	7	36	17	ホタル
2005	7	36	17-18	植物から出題されたクイズ
2005	7	36	19	エドヒガン調査雑感
2005	7	36	20	フィールド・レポーター7月・8月・9月予定
2005	7	36	20	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2005	9	37	1	怪しいおじさんのセミ捕り
2005	9	37	2-3	学芸員紹介シリーズ(15)「質問コーナーでの半日」 芳賀 裕樹さん

発行年	月	号	ページ	タイトル
2005	9	37	4-5	C展示室のフィールドレポーターコーナーを一新しました
2005	9	37	6	セカイヤメスギ・セカイヤオスギ・レバノンシダーについて
2005	9	37	6	学芸員からの回答
2005	9	37	7	学芸員からの回答
2005	9	37	8-10	シロバナタンポポのこと
2005	9	37	11	タンポポ調査雑感
2005	9	37	12	ホタルその後
2005	9	37	13	エイザンスミレの分布調査
2005	9	37	14-15	三つの〇〇葉物語ーその後
2005	9	37	15	生き物万来
2005	9	37	16-17	山で遭遇する危険な動物(クマ・スズメバチ・マムシ・ヤマカガシ・ヒル)に関する調査・報告(第2回)クマ(ツキノワグマ)について(その1)
2005	9	37	18	キジの卵が九つも!!
2005	9	37	19	萩まちじゅう博物館に集う、にほんじゅうの博物館
2005	9	37	20	フィールドレポーター10月・11月・12月予定
2005	9	37	20	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2005	11	38	1	ミクロ生物館を訪れて
2005	11	38	2-3	学芸員紹介シリーズ(16)「水で判定、この山健康?」草加 伸吾さん
2005	11	38	4-5	萩ボランティアメッセに参加して
2005	11	38	6	フィールドレポーターのブース展示
2005	11	38	7-8	萩ボランティアメッセに参加して
2005	11	38	9-10	山口県を瀬戸内から日本海へ
2005	11	38	11	アメリカセンダングサの薬効
2005	11	38	11	金魚の稚魚はどんな色?
2005	11	38	12	テントウムシの越冬
2005	11	38	13-14	セミの調査雑感
2005	11	38	15	セミの兄弟
2005	11	38	16-17	山で遭遇する危険な動物(クマ・スズメバチ・マムシ・ヤマカガシ・ヒル)に関する調査・報告(第3回)クマ(ツキノワグマ)について(その2)
2005	11	38	18	超簡単、分かりやすく適用範囲の広い物理の法則
2005	11	38	19	第6回パワフル交流 市民の日
2005	11	38	20	フィールドレポーター12月・1月・2月予定
2005	11	38	20	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2006	1	39	1-2	ヨルダンの博物館事情
2006	1	39	3	楠岡 泰氏(主任学芸員, Fレポーター担当)のヨルダンからの国談を聞いて
2006	1	39	4	竹の利用法調査中間結果
2006	1	39	5	竹の利用法調査で思ったこと
2006	1	39	6	今もある竹製品
2006	1	39	7	1日に5種類以上のセミの声を同じ地点で聴いたことがありますか?
2006	1	39	8-9	セミの初鳴きと羽化
2006	1	39	10	セミの羽化
2006	1	39	11	顔の髷がりのあるフィールドレポーターへ
2006	1	39	12-13	わが家には変な植物が増殖中
2006	1	39	14	フィールド・レポーター2月・3月・4月予定
2006	1	39	14	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2006	4	40	1	ギャラリー展:博物館を楽しもう「はしかけ・フィールドレポーター活動紹介」に参加して
2006	4	40	2	ギャラリー展博物館を楽しもう「はしかけ・フィールドレポーター活動紹介」の会場スケッチ
2006	4	40	3	竹細工教室は大盛況でした
2006	4	40	4-7	「竹の利用法調査」に際して
2006	4	40	8-9	ナマズ救出大作戦
2006	4	40	10-11	【山で遭遇する危険な動物(クマ・スズメバチ・マムシ・ヤマカガシ・ヒル)に関する調査・報告】スズメバチについて
2006	4	40	12-13	与謝蕪村もフィールドレポーター
2006	4	40	14	レッスンバンドが立っても…
2006	4	40	15	百五十人のすごい仲間たちへ
2006	4	40	16	フィールドレポーター交流会のご案内

発行年	月	号	ページ	タイトル
2006	4	40	17	フィールド・レポーター5月・6月・7月予定
2006	4	40	17	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2006	7	41	1	自然な田んぼ
2006	7	41	2-3	学芸員紹介
2006	7	41	4-5	「オオヨシキリ」さえずり調査 第1回調査報告
2006	7	41	6	多すぎるオオヨシキリ
2006	7	41	7	湖西自然探訪記
2006	7	41	8-9	竹取物語
2006	7	41	10-11	【山で遭遇する危険な動物に関する調査・報告】マムシ・ヤマカガシについて
2006	7	41	12-13	初回・竹トンボの作り方
2006	7	41	14-15	「饗庭地区の植物」のホームページ案内
2006	7	41	16	フィールドレポーター交流会報告
2006	7	41	17	フィールド・レポーター7月・8月・9月予定
2006	7	41	17	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2006	9	42	1	原生動物の分類
2006	9	42	2	C展示FRコーナーがリニューアルしました
2006	9	42	3	第2回調査票締切迫る
2006	9	42	4-5	オオヨシキリのさえずり調査票(第一回)から質問9、質問10
2006	9	42	6	気になる植物(2種)
2006	9	42	7	ゲンジボタル、ナマズその後
2006	9	42	8	アボガト追伸
2006	9	42	9	外来魚の除去について
2006	9	42	10-11	【山で遭遇する危険な動物に関する調査・報告】ヒルについて
2006	9	42	12	ボランティアメッセ2006 IN 九州博物館に参加しませんか?
2006	9	42	13	フィールドレポーター9月・10月・11月の予定
2006	9	42	13	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2006	11	43	1	博物館ボランティアメッセで小耳に挟んだこと
2006	11	43	2-3	学芸員紹介シリーズ(18)里口 保文さん(層序学専攻)
2006	11	43	4	ボランティアメッセ2006 IN 九博
2006	11	43	5	展示効果を計測できるかな…
2006	11	43	6-7	アジア交流の拠点 九博
2006	11	43	8	博物館のボランティア活動は
2006	11	43	9-10	展示会場での一言メッセージを紹介します
2006	11	43	11	草津市「第7回パワフル交流・市民の日」に参加しました。
2006	11	43	12-13	県立曾根沼緑地公園のやっかい生物
2006	11	43	14	トラップと電撃捕虫器のゲーム
2006	11	43	15	ヨシ笛コンサートとヨシのお話を聴きました
2006	11	43	16	フィールド・レポーター12月・1月・2月予定
2006	11	43	16	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2007	2	44	1	琵琶湖は未知の原生動物の宝庫
2007	2	44	2-4	学芸員紹介シリーズ(19)秋山 廣光さん(水族病理学専攻)
2007	2	44	5-9	【ギャラリー展示】企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年
2007	2	44	10-11	「トラップと電撃捕虫器」についてご質問への学芸員さんからのご回答
2007	2	44	12-13	ミノムシ調査探訪記
2007	2	44	14-15	野生の川魚・海水魚を飼って見ませんか
2007	2	44	16	切断された旧草津川堤防の断面
2007	2	44	17	「掲示板」および「フィールドレポーターだより」ホームページへの掲載について
2007	2	44	18	フィールド・レポーター2月・3月・4月予定
2007	2	44	18	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2007	4	45	1	3年間お世話になりました
2007	4	45	1	よろしくお祈いします
2007	4	45	2-3	伊丹市昆虫館友の会紹介
2007	4	45	4	伊丹昆虫館に行ってきました
2007	4	45	5	大人もわくわく伊丹昆虫館
2007	4	45	6	伊丹昆虫館との交流会(2月18日)に参加して

発行年	月	号	ページ	タイトル
2007	4	45	7-8	野生の川魚・海水魚を飼って見ませんか
2007	4	45	9	二湖物語(その1)
2007	4	45	10-11	伊丹昆虫館で
2007	4	45	12	2月11日の比良、「はしかけ・植物観察の会」で
2007	4	45	13	淡墨桜のあれこれ
2007	4	45	14	我が家と周辺の鳥たち(第1報)
2007	4	45	15	我が家と周辺の鳥たち(第2報)
2007	4	45	16	伊丹昆虫館交流会に参加して
2007	4	45	17	ツバメ調査の締め切り日7月31日のお知らせ
2007	4	45	18	フィールド・レポーター4月・5月・6月予定
2007	4	45	18	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2007	6	46	1	『やさしい』とか『保護』でいいのか？
2007	6	46	2-3	楽しかった交流会！
2007	6	46	4	10周年企画展一言
2007	6	46	5	ゲンジボタル-2
2007	6	46	6	チツゼミ生息調査計画
2007	6	46	7-8	病窓から
2007	6	46	9-10	ミノムシ調査雑感
2007	6	46	11-15	夏のセミ調査
2007	6	46	16	水族バックヤード探検の中止について（お知らせ）
2007	6	46	17	フィールド・レポーター7月・8月・9月予定
2007	6	46	17	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2007	9	47	1	“安心”まで売って欲しくない！
2007	9	47	2-4	学芸員紹介シリーズ 第20回 大塚泰介さん（陸上生態系学）
2007	9	47	5	アサギマダラ・マーキング会に参加して
2007	9	47	6	アサギマダラの観察・マーキング会 下見に参加して
2007	9	47	7	アサギマダラを追いかけて
2007	9	47	8-9	比良に舞う蝶を追う
2007	9	47	10	びわ湖バレーにアサギマダラと遊んで
2007	9	47	10	つばめの悲しき結末
2007	9	47	11	ツバメ調査雑感
2007	9	47	12	ツバメ調査の結果
2007	9	47	13	外来生物法とベットの嘆き！
2007	9	47	14	庭の空蟬(ウツゼミ)
2007	9	47	15	WANTED「ボタンウキクサ」
2007	9	47	16	フィールド・レポーター9月・10月・11月予定
2007	9	47	16	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2007	11	48	1	柗島さん深謝
2007	11	48	1	山中さん（新編集長）、よろしくお願いします
2007	11	48	2	チツゼミ観察会
2007	11	48	3	チツゼミ観察会
2007	11	48	4-5	近江富士・三上山のセミ
2007	11	48	6-7	ボタンウキクサ調査 中間報告
2007	11	48	8	草津パワフルに参加して
2007	11	48	9	チツゼミの新ポイント発見
2007	11	48	10-11	流出するボタンウキクサを見た
2007	11	48	12	「パワフル交流・市民の日」でボタンウキクサを
2007	11	48	13	フィールド・レポーター12月・1月・2月予定
2007	11	48	13	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2008	2	49	1	ヒトは魚のなれのはて？
2008	2	49	2-3	ボタンウキクサ調査探訪記
2008	2	49	4-5	亀尾市金鳥山（Kumosan）道立自然公園散歩
2008	2	49	6	もちつき
2008	2	49	7	オオミノガのその後
2008	2	49	8-9	虫はエライ！うんこ染め体験報告
2008	2	49	10	虫のうんち染めに参加して
2008	2	49	11	フィールドレポーターの皆さんへのお願い
2008	2	49	12	フィールド・レポーター3月・4月予定
2008	2	49	12	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2008	4	50	1	自己紹介
2008	4	50	2	仔犬と毒草
2008	4	50	3	もっと密にならないか、F・レポーターの交流
2008	4	50	4	もったいない。（その1）

発行年	月	号	ページ	タイトル
2008	4	50	4	昨年のツバメの調査のその後
2008	4	50	5	身近な脊椎動物
2008	4	50	6	何とかならぬか生物用語（その1）
2008	4	50	7	雑給水として天水を生かしませんか。
2008	4	50	7	希望する調査項目
2008	4	50	8-10	「虫たちに聞いてみよう」アンケートについて
2008	4	50	11	ボタンウキクサ そのII
2008	4	50	12	吾輩は浮き草である
2008	4	50	13	フィールドレポーター調査内容についてのご意見
2008	4	50	14	琵琶湖博物館からのお知らせ
2008	4	50	15	フィールド・レポーター5月・6月・7月予定
2008	4	50	15	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2008	7	51	1	自己紹介
2008	7	51	2-3	天蚕飼育日記
2008	7	51	4	「みちるべ」調査の経過報告（2008年6月20日現在）
2008	7	51	5	「みちるべ」調査のポイント
2008	7	51	6	オオミノガ 定点観測
2008	7	51	7-8	祭りは楽しかった
2008	7	51	9	生活実験工房からのお知らせ
2008	7	51	10	鳥の巣箱とスティックトンボ（その1）
2008	7	51	10-11	鳥の巣箱とスティックトンボ（その2）
2008	7	51	11-12	鳥の巣箱とスティックトンボ（その3）
2008	7	51	13	FRまつりでブラックバスを食べました
2008	7	51	14	フィールド・レポーター8月・9月・10月予定
2008	7	51	14	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2008	7	51	15	アカトンボのふる里さがし
2008	9	52	1	研究発表会へのご参加を！
2008	9	52	2-3	「みちるべ」調査 中間報告（2008年9月10日現在）
2008	9	52	4	琵琶湖の魚を楽しみました
2008	9	52	5	天蚕「繭」の中、変態
2008	9	52	6-7	アキアカネの標識調査
2008	9	52	8	天蚕飼育 フロアトークを省みて
2008	9	52	9	ボタンウキクサが展示販売されています
2008	9	52	10	梅雨（チャンマ）の季節になりました
2008	9	52	11	フィールド・レポーター10月～2009/1月予定
2008	9	52	11	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2009	1	53	1	本年もよろしく願います！！
2009	1	53	2-3	ボタンウキクサの分布地のその後
2009	1	53	4-5	サギ三態
2009	1	53	6	またタンボゴ調査をします
2009	1	53	7	オオミノガ 定点観測-3
2009	1	53	8	“食の調査お願い”あれこれ
2009	1	53	9	「アイス・エイジ」 主役ドングリの種類を愚考する！
2009	1	53	10	旧草津川の長堤切断の砂層の歴史
2009	1	53	11	駆け巡り大阪市立自然史博物館
2009	1	53	12	危険が一杯
2009	1	53	13-14	韓国開催、ラムサール会議の開催地の様子など
2009	1	53	15	フィールド・レポーター2月～3月予定
2009	1	53	15	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2009	3	54	1	たのしみな「琵琶湖博物館特別講演会」
2009	3	54	2-4	学芸員紹介シリーズ 第21回 楊平さん
2009	3	54	5-7	お雑煮は 白味噌に丸餅・・・
2009	3	54	8	「タンボゴ調査・西日本2010」にご協力をお願いします
2009	3	54	9	緯度・経度⇒3次元メッシュコード変換ツール
2009	3	54	10	インターネットによる調査地点の特定法について
2009	3	54	11	正月の食べ物
2009	3	54	12-14	正月は美味しいものを
2009	3	54	15	フィールド・レポーター4月～5月予定
2009	3	54	15	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2009	7	55	1	巻頭言
2009	7	55	2-3	待ちに待ったイチヤクソウの花が咲いた
2009	7	55	3	オオミノガは蛾に成長しました

発行年	月	号	ページ	タイトル
2009	7	55	4	田んぼのシャジクモ
2009	7	55	5	男性美・高原美の比良連峯
2009	7	55	6	クサボケを探しています
2009	7	55	7	“アカトンボ（アキアカネ）のふるさと探し”に参加しませんか
2009	7	55	8	我が家のテントウムシ事情
2009	7	55	9-12	テントウムシが、フィールドレポーターを全国区に
2009	7	55	13	テントウムシは見つかりましたか
2009	7	55	14	フィールド・レポーター8月～10月予定
2009	7	55	14	フィールドレポータースタッフから編集を終えて
2009	9	56	1	巻頭言
2009	9	56	2	テントウムシ調査 中間結果
2009	9	56	3	筍暮らして筍遊び
2009	9	56	4	天水ノ利水ノススメ
2009	9	56	5-6	韓国のラムサール条約登録湿地を訪ねて
2009	9	56	7	ミンミンゼミに聞いてみたい
2009	9	56	8	比良・打見山にトンボを追う
2009	9	56	9-10	テントウムシが撮れない
2009	9	56	11-12	フィールドレポーターはいったいどこに生息しているのか？（笑）
2009	9	56	13-14	秀吉のお城で“はたおり”
2009	9	56	15	フィールド・レポーター10月～12月予定
2009	9	56	15	編集後記&お知らせ
2009	11	57	1	巻頭言
2009	11	57	2	テントウムシ調査 -中間結果2-
2009	11	57	3	テントウムシ雑感
2009	11	57	4	何時でも良いのですが河川の橋を調べませんか？
2009	11	57	4	レポーター掲示板へ
2009	11	57	5	な、なんと“近江ことば”が標準語に!!??
2009	11	57	6-7	“賞味期限”のありやなしや？
2009	11	57	8-9	紀行「ゼンリン地図の資料館」をたずねて
2009	11	57	10	なんとも厄介！生物学と和名（その1）
2009	11	57	11	セミ不作
2009	11	57	12-13	道標調査個人編
2009	11	57	14	各国料理で懇親会
2009	11	57	15	フィールド・レポーター11月～2月予定
2009	11	57	15	編集後記&お知らせ
2010	2	58	1	「近江ことば いまむかし」に思う
2010	2	58	2-3	2009年度第2回調査“近江ことば いまむかし調査”を終えて
2010	2	58	4	テントウムシ調査雑記
2010	2	58	5	テントウムシに関するQ & A
2010	2	58	6	捕まえたらタイガー・サラマンダーだった
2010	2	58	7	春はもうすぐ、タンポポ調査・西日本2010が始まります！
2010	2	58	8-9	滋賀県のタンポポ調査2010・西日本・予備調査結果
2010	2	58	10	法の盲点みつけた！
2010	2	58	10-11	なんとも厄介！生物学と和名（その2）
2010	2	58	12-13	紀行「ガリ版伝承館」を訪ねて
2010	2	58	14	メジロが知らせてくれた
2010	2	58	15	フィールド・レポーター3月～4月予定
2010	2	58	15	編集後記&お知らせ
2010	6	59	1	暮らして自然とのかかわり合い
2010	6	59	2	新館長からのごあいさつ
2010	6	59	3	C展示室 フィールドレポーター展示コーナーのリニューアル
2010	6	59	4-6	2010年度フィールドレポーター交流会の活動報告
2010	6	59	7	フィールドレポーターのご意見照会
2010	6	59	8	キョロテントウのサンプル提供依頼
2010	6	59	9	琵琶湖に新種モロコ？
2010	6	59	10-11	紀行「金子みずゝ記念館」を訪ねて
2010	6	59	12	近所のカンサイタンポポ(?)調べ
2010	6	59	13	プライバシーの無い巣箱
2010	6	59	13-14	なんとも厄介！生物学と和名（その3）
2010	6	59	14	津波の後で

発行年	月	号	ページ	タイトル
2010	6	59	14-15	20100301
2010	6	59	15-16	社会の常識・物理化学屋の常識
2010	6	59	16	犬を飼うなら
2010	6	59	16-17	博物館と町の清掃
2010	6	59	17	イワシを測ってイワシクジラを知る話
2010	6	59	17	ミノムシ多数発生
2010	6	59	18	ボタンウキクサ調査が論文に
2010	6	59	19	フィールド・レポーター7月～9月予定
2010	6	59	19	編集後記&お知らせ
2010	9	60	1	伝統的文化の存続と地域住民
2010	9	60	2-3	「イチョウウキゴケを探そう」調査の中間報告
2010	9	60	4-5	アカトンボ（アキアカネ）のふるさと探し
2010	9	60	6	アカトンボのふるさと探し参加者のひと言
2010	9	60	7	また見られるかな？このマーク
2010	9	60	8	三上便り
2010	9	60	9	不要なケミドラムで天水桶を
2010	9	60	10	どうでも良い疑問
2010	9	60	10	圧縮バットの製法は？
2010	9	60	11	なんとも厄介！生物学と和名（その5）]
2010	9	60	12	フィールド・レポーター9月～12月予定
2010	9	60	12	編集後記&お知らせ
2010	12	61	1	フィールド調査でつなぐ地域交流
2010	12	61	2	「いきものみつけ」COP10シンポジウムにフィールドレポーターの事例発表
2010	12	61	3	市民参加の生き物調査団体、大集合ーいきものみつけシンポジウムー
2010	12	61	4	COP10「いきものみつけシンポジウム」を傍聴し
2010	12	61	5	「いきものみつけ」シンポジウムに参加して
2010	12	61	6	どこへ行ってしまったのか アキアカネ
2010	12	61	7	雑草と焼畑農業
2010	12	61	8-9	カマキリは積雪を予知しない
2010	12	61	10	馬のいる風景
2010	12	61	11	校庭樹の手入れ（その1）
2010	12	61	12	私の湖岸散歩 - 旧草津川と葉山川の変貌 -
2010	12	61	13	フィールド・レポーター12月～3月予定
2010	12	61	13	編集後記&お知らせ
2011	3	62	1	琵琶湖の自然とフィールドレポーター調査
2011	3	62	2-3	フィールドレポーターに新規登録される方を募集しています
2011	3	62	4	「フィールドレポーター」登録更新手続き、および琵琶湖博物館2010年度年報へのお名前掲載の可否について
2011	3	62	5	捜していますーあなたが使った水の量報告書ー
2011	3	62	6	“近江ことば いまむかし”調査を終えて
2011	3	62	7	「お正月遊び」調査中間報告
2011	3	62	8	雪の下では
2011	3	62	9	年代と暦について
2011	3	62	9-10	二宮金次郎の後輩に百葉箱を
2011	3	62	10	猿でも出来るが、反省と改名
2011	3	62	10-11	P u l l u p 彦根市！！
2011	3	62	11	レアアースを見直して
2011	3	62	12	フィールド・レポーター3月～6月予定
2011	3	62	12	編集後記&お知らせ
2011	6	63	1	巻頭言
2011	6	63	2	いろいろ教えていただきありがとうございました
2011	6	63	3	C展示室のフィールドレポーター・コーナーを更新しました
2011	6	63	4-6	2011年度フィールドレポーター交流会の活動
2011	6	63	7-8	交流会にご参加の皆さんからのメッセージをご紹介
2011	6	63	8	探し物、見つかりました
2011	6	63	9	採らぬグミの実算用
2011	6	63	10	頑張り！納豆菌
2011	6	63	11	キッチンガーデニングの奨め
2011	6	63	11	水草に付いての疑問
2011	6	63	12-13	石山寺の裏で稲作法話を聞く

発行年	月	号	ページ	タイトル
2011	6	63	14	定例会の活動報告
2011	6	63	15	フィールド・レポーター6月～9月予定
2011	6	63	15	編集後記
2011	9	64	1	東日本大震災に思う
2011	9	64	2	フィールドレポーター活動報告
2011	9	64	3	びわ湖の日「あさ・ひる・ばん博物館を楽しもう！」イベント報告
2011	9	64	4	アキアカネのふるさと探し-3
2011	9	64	5-7	比良・蓬萊山1075mにヒトサクル
2011	9	64	8	アカトンボのふるさと探しに参加して
2011	9	64	8	三上便り
2011	9	64	9	三上だより-蛭とつばめ-
2011	9	64	10-13	音はずれども水は...
2011	9	64	14	「日本六玉川」って???
2011	9	64	15-16	田んぼに絵の描き方?
2011	9	64	17-18	小さなガイアは水の中
2011	9	64	18	水草に付いての疑問
2011	9	64	18-19	高吸水性ポリマーの謎
2011	9	64	19	逆発想の地冷冷房
2011	9	64	20	フィールド・レポーター9月～12月予定
2011	9	64	20	編集後記
2011	12	65	1	水のはなし
2011	12	65	2	冬の生き物観察
2011	12	65	3	2011年度第2回調査は「ミノムシ調査」です
2011	12	65	4	「滋賀の天然水と水の神さま」調査中間報告
2011	12	65	5-7	湧水余滴 世継の「かなぼう」
2011	12	65	8-9	サル者は追え!
2011	12	65	9	おのおの方、ご油断めさるな!
2011	12	65	10	樹形に付いての仮説
2011	12	65	11	ツバメの巣を調べてみると
2011	12	65	12	フィールド・レポーター12月～3月予定
2011	12	65	12	フィールドレポーター活動報告
2011	12	65	13	編集後記
2012	3	66	1	一年をふり返って
2012	3	66	2	春を迎える生き物観察
2012	3	66	3	2011年度第2回調査『ミノムシ・・・その後～オオミノガはどうなったのか?～』中間報告
2012	3	66	4	琵琶湖博物館フィールドレポーター2012年度第1回調査予告 スクミリンゴガイ(俗名 ジャンボタニシ)の分布調査
2012	3	66	5	「変貌」(トランスギュレイション)する旧草津川堤防の記録をぜひ
2012	3	66	6-7	余呉川畔のミノムシ?を撮れたが
2012	3	66	8-9	ちょっとだけ環境を(その1)
2012	3	66	9	ちょっとだけ環境を(その2)
2012	3	66	10	ちょっとだけ環境を(その3)
2012	3	66	11	草津市内の水鳥を観察しました
2012	3	66	12	5月「わくたん」のイベントはフィールドレポーターが共催『葉っぱであそぼう!』を予定しています
2012	3	66	12	新年度第一回フィールドレポーター交流会は5月開催です
2012	3	66	13	フィールドレポーター活動報告
2012	3	66	13	フィールドレポーター4月～6月予定
2012	3	66	13	編集後記
2012	6	67	1	巻頭言
2012	6	67	2	新任学芸職員あいさつ
2012	6	67	3	離任のご挨拶
2012	6	67	3	5月「わくたん」のイベントはフィールドレポーターが共催。『葉っぱであそぼう!』で楽しんでいただきました
2012	6	67	4-6	2012年度フィールドレポーター交流会の活動報告
2012	6	67	7	スクミリンゴガイ観察会
2012	6	67	8-9	忽然と消えたカイエビ
2012	6	67	10-11	雑草園は今年も

発行年	月	号	ページ	タイトル
2012	6	67	11	オオキンケイギクは伸び伸びと広がっています
2012	6	67	12	「ホタルの調査」野洲市の橋本利衛様より
2012	6	67	12	C展示室のフィールドレポーター・コーナーを更新しました
2012	6	67	13	フィールドレポーター活動がラジオで生放送され
2012	6	67	13	フィールドレポーター活動報告
2012	6	67	14	フィールドレポーター6月～9月予定
2012	6	67	14	編集後記
2012	9	68	1	巻頭言
2012	9	68	2	タニシ調査結果中間結果
2012	9	68	3	タニシ調査に際して-1
2012	9	68	3	タニシ調査に際して-2
2012	9	68	4-5	今を生きるネズミと、過去に生きたネズミ
2012	9	68	6-7	休耕田にホウネンエビ
2012	9	68	8	この夏の蛙(カエル)の話
2012	9	68	9	子供の安全のために
2012	9	68	9-10	ややかしや～、ややかしや～
2012	9	68	10	KBS京都ラジオの“笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ”にフィールドレポータースタッフの森擴之さんが生出演しました
2012	9	68	10	今年のアカトンボのふるさと探し、びわこバレイでのマーキングは雨で中止しました
2012	9	68	11	今秋のフィールドレポーターの活動にご協力、ご支援をお願いします。
2012	9	68	12	フィールドレポーター活動報告
2012	9	68	13	フィールドレポーター10月～12月予定
2012	9	68	13	編集後記
2012	12	69	1	巻頭言
2012	12	69	2	講演会「“生命のにぎわい”をみんなで調べる方法をさぐる」に参加して
2012	12	69	3	「“生命のにぎわい”をみんなで調べる方法をさぐる」講演を聞いて
2012	12	69	4-7	あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう!が10月19日、20日、21日開催されました
2012	12	69	8-9	わくわく探検隊「紙すきをしよう」報告
2012	12	69	10	カマキリの卵のう調査四方山話
2012	12	69	11	フィールドレポーター活動報告
2012	12	69	12	フィールドレポーター1月～3月予定
2012	12	69	12	編集後記
2013	3	70	1	巻頭言
2013	3	70	2-3	今年度のイベントの様子をまとめました
2013	3	70	4	ハチクマは同じルートを戻ってくるか
2013	3	70	5	街のカモ、田舎のカモ
2013	3	70	6	海水魚を飼って見ませんか
2013	3	70	7-8	種子島と尿処理
2013	3	70	9	イルカ、この変な奴
2013	3	70	10	フィールドレポーターの新年度前半の予定
2013	3	70	11	フィールドレポーター活動報告
2013	3	70	12	フィールドレポーター4月～6月予定
2013	3	70	12	編集後記
2013	6	71	1	巻頭言
2013	6	71	2	わたしにとってのフィールドレポーター
2013	6	71	3	JICA 研修生と交流会・懇親会
2013	6	71	4-5	2013年度第1回フィールドレポーター交流会の活動報告
2013	6	71	6	山門水源の森観察会・「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」との交流会
2013	6	71	7	靴を間違えた「山門湿原」
2013	6	71	8	健康法としての一万歩から
2013	6	71	8	研究論文の紹介
2013	6	71	9	納豆賛歌・その1
2013	6	71	10	納豆賛歌・その2
2013	6	71	10-11	納豆賛歌・その3
2013	6	71	11	ホタルウォッチング
2013	6	71	12	空梅雨でカタツムリの出番はどうなる?

発行年	月	号	ページ	タイトル
2013	6	71	13	フィールドレポーター活動報告
2013	6	71	14	フィールドレポーター7月～9月予定
2013	6	71	14	編集後記
2013	9	72	1	巻頭言
2013	9	72	2	カタツムリ調査報告ありがとうございます。
2013	9	72	3	カタツムリを飼育するはめになった
2013	9	72	4-5	カタツムリの行動
2013	9	72	6	台風18号が教えてくれた
2013	9	72	7	あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう！7月5日（金）、6日（土）開催されました
2013	9	72	8	アカトンボ（アキアカネ）のふるさと探し
2013	9	72	9	ふと見れば、バイカモ
2013	9	72	10	セミも戸惑う？
2013	9	72	11	アブラゼミを写真に撮ってみました
2013	9	72	12	彦根市南部のツバメ類&ワシ・タカ類情報
2013	9	72	12	鉄の地産地消について
2013	9	72	13	次世代廃棄物焼却炉に付いて
2013	9	72	13	ムシをムシしちゃいけないぜ
2013	9	72	14	フィールドレポーター活動報告
2013	9	72	15	フィールドレポーター10月～12月予定
2013	9	72	15	編集後記
2013	12	73	1	巻頭言
2013	12	73	2	2013年度秋のトンボ調査結果
2013	12	73	3	アキアカネの産卵
2013	12	73	4	マークされたアキアカネを探してみました が...残念！
2013	12	73	5	大河の一滴 台風18号から
2013	12	73	5-6	ゴーヤ・苦瓜・蔓荔枝
2013	12	73	6	蔓荔枝（ツルレイシ）・苦瓜・ゴーヤ・bitter
2013	12	73	6	雑件
2013	12	73	6	日本の地球温暖化ガス総排出量の見直しを
2013	12	73	7	アカトンボ（アキアカネ）のふるさと探し
2013	12	73	7	「小さい冬みつけた」調査のご案内
2013	12	73	8	フィールドレポーター活動報告
2013	12	73	9	フィールドレポーター1月～3月予定
2013	12	73	9	編集後記
2014	3	74	1	巻頭言
2014	3	74	2-3	「小さい冬みつけた」調査の中間報告
2014	3	74	4	アカウキクサを見つけました
2014	3	74	5	早春を彩る雑草
2014	3	74	6	オオミノガ 定点観測-4
2014	3	74	7	Where have all the eel gone ~♪♪♪♪♪♪♪♪？
2014	3	74	8	炭素併設の産業廃棄物焼却炉は作れないか
2014	3	74	8	日本の地球温暖化ガス総排出量の見直し
2014	3	74	9	旧草津川周辺でミノムシを探してみました
2014	3	74	10	国際花と緑の博覧会記念協会の花博記念協会助成 金事業から助成金がフィールドレポーター宛交付 決定しました
2014	3	74	11	フィールドレポーター活動報告
2014	3	74	12	フィールドレポーター4月～6月予定
2014	3	74	12	編集後記
2014	6	75	1	巻頭言
2014	6	75	2	フィールドレポーター副担当着任の挨拶
2014	6	75	2	フィールドレポーター副担当離任にあたって
2014	6	75	2	C展示室、フィールドレポーターコーナーを更新 しました
2014	6	75	3	JICA研修生と交流しました
2014	6	75	4-5	2014年度第1回フィールドレポーター交流会の活 動報告
2014	6	75	6	頼みの案山子
2014	6	75	7	グミは水切りネットでガード
2014	6	75	8	櫻の花の満開の下で
2014	6	75	8-9	F・レポーターの調査項目に付いて
2014	6	75	9	迷惑動物対策にリモコン・ヘリを

発行年	月	号	ページ	タイトル
2014	6	75	10	ペランダの珍客
2014	6	75	11	第1回調査「身近なシノキとその花をしらべて みよう」
2014	6	75	11	フィールドレポーター活動報告
2014	6	75	12	フィールドレポーター7月～9月予定
2014	6	75	12	編集後記
2014	9	76	1	巻頭言
2014	9	76	2-3	「身近なシノキとその花をしらべてみよう」調 査中間報告
2014	9	76	4	アカトンボ（アキアカネ）の調査・観察会を開催 しました
2014	9	76	5	2014年度「発見びわ博フェスティバル」に参加
2014	9	76	5	キッチン・ガーデニング
2014	9	76	5-6	アニマルパターンの法則、その他
2014	9	76	6-7	お手軽トレジャーハンティング案
2014	9	76	8	数ミリのおそろしい外来水生生物
2014	9	76	9	草津市商店街でツバメの巣観察
2014	9	76	10	アカトンボ（アキアカネ）のふるさと探し
2014	9	76	10-11	琵琶湖博物館フィールドレポーター2014年度 第1回調査-II
2014	9	76	11	フィールドレポーター活動報告
2014	9	76	12	フィールドレポーター10月～12月予定
2014	9	76	12	編集後記
2014	12	77	1	巻頭言
2014	12	77	2-3	「身近なシノキのドングリをしらべてみよう」 中間報告
2014	12	77	4	2014年度秋のトンボ調査結果
2014	12	77	5	冬の調査のテーマは「和服」
2014	12	77	6	着物はすばらしい
2014	12	77	7	大きいことは好いこと？突然変異か
2014	12	77	8	色を言葉で伝えるには
2014	12	77	8	ゲッコウ・ヤモリ（守宮）、トクエイ（大守宮）
2014	12	77	9	殺虫剤不要論
2014	12	77	9	水草のエタノール発酵
2014	12	77	10	琵琶湖博物館発のマーキング・ルール
2014	12	77	10	旧草津川周辺のアキアカネの観察
2014	12	77	11	フィールドレポーター活動報告
2014	12	77	12	フィールドレポーター1月～3月予定
2014	12	77	12	編集後記
2015	3	78	1	巻頭言
2015	3	78	2	琵琶湖博物館フィールドレポーター2014年度第2 回調査「みんなも着ている！？和服大調査」
2015	3	78	3	世界測地系と日本測地系
2015	3	78	4	初投稿します
2015	3	78	5	花燃ゆ思い 旧草津川跡地
2015	3	78	6	わからぬ話
2015	3	78	6	2015年度第1回調査「タンボゴ調査」始まり ました
2015	3	78	6-7	2015年度第1回フィールドレポーター交流会 の予告です
2015	3	78	7	フィールドレポーター活動報告
2015	3	78	8	フィールドレポーター4月～6月予定
2015	3	78	8	編集後記
2015	7	79	1	ごあいさつ
2015	7	79	3	ああ草津川 天井川よ
2015	7	79	4	アオダイショウの子ども
2015	7	79	5	ゴーヤの日除けと、昔の学習の再確認
2015	7	79	6	高度の熟練技にインテリジェンスロボを
2015	7	79	6	川魚の遡上を助けるラダーを
2015	7	79	6-7	ユッケ、レバー刺しの復権
2015	7	79	7	超高級・高価嗜好品の地場産業化
2015	7	79	7-8	見過ごされている無限のエネルギー源
2015	7	79	8	何でだろう
2015	7	79	8-9	でっかい話
2015	7	79	9	高度の熟練技にインテリジェンスロボットを

発行年	月	号	ページ	タイトル
2015	7	79	9-10	曾根沼緑地公園を 他府県に誇れる自然観察地に
2015	7	79	10	リモコンヘリとホバークラフトの活用
2015	7	79	11	フィールドレポーター出張交流会に行ってきました
2015	7	79	11	琵琶湖博物館 フィールドレポーター交流会 with はしかけ
2015	7	79	12	フィールドレポーター出張交流会報告
2015	7	79	13	フィールドレポーター交流会に参加して
2015	7	79	14	フィールドレポーター宿泊(6月20, 21日) 交流会に参加して
2015	7	79	15	菅浦にて
2015	7	79	16	つづらお荘、食堂の望遠鏡
2015	7	79	17	みんな裸足で参拝
2015	7	79	18	ホテルの舞に魅せられる
2015	7	79	19	話の肴に、酒がほどよくて
2015	7	79	20	傘の下から覗く田んぼ
2015	7	79	21	滋賀一番のシイの巨木
2015	7	79	22-23	また行きたい出張交流会
2015	7	79	24	フィールドレポーター7月～9月予定
2015	7	79	24	編集後記
2015	9	80	1	田んぼにトンボが帰ってくる
2015	9	80	2	2015年度アキアカネマーキング調査inびわ湖パレ
2015	9	80	3	比良にトンボを追って
2015	9	80	4	ツバメの巣の観察、於草津市の旧東海道草津宿商店街周辺
2015	9	80	5	教えて下さい
2015	9	80	6	海豚は居るか?
2015	9	80	7	老いてレポーター元気です
2015	9	80	7	FRSと相談したい件
2015	9	80	8-9	シイの実が顔をだしはじめた
2015	9	80	10	玉虫みーつけた!!
2015	9	80	10	大橋様
2015	9	80	11	フィールドレポーター活動報告
2015	9	80	12	フィールドレポーター10月～12月予定
2015	9	80	12	編集後記
2016	1	81	1	生物季節の異常
2016	1	81	2	フィールドレポータースタッフ大募集
2016	1	81	3	2015年度秋のアキアカネ調査の報告
2016	1	81	4-5	我が家のタンボゴ戦争
2016	1	81	6	終わらない夢・秋日和
2016	1	81	7	赤トンボ・アキアカネが減っているか?草津市内の2カ所で調べてみました
2016	1	81	8	もどってくれたヤモリ
2016	1	81	9	この花を見る目が変わった
2016	1	81	10-11	ヤモリとクモ1
2016	1	81	12	お知らせ
2016	1	81	13	フィールドレポーター活動報告
2016	1	81	13	フィールドレポーター1月～3月予定
2016	1	81	13	編集後記
2016	4	82	1	フィールドレポーター調査の多数性・多様性
2016	4	82	2	早春の湧水湿地の小動物
2016	4	82	3	田んぼに落ちた小人の帽子?
2016	4	82	4-6	報告前にひとこといわしてください
2016	4	82	7	「我が家のタンボゴ戦争」の近江心気郎
2016	4	82	8-9	野菜で造る神輿
2016	4	82	10-11	ヤモリとクモ2
2016	4	82	12	厄介物転じて高級食材に
2016	4	82	12-13	木の葉は森に隠せ、厨芥は土壌に還せ
2016	4	82	13	自然愛好グループの横の連絡網を
2016	4	82	14	フィールドレポーター活動報告
2016	4	82	15	フィールドレポーター4月～6月予定
2016	4	82	16	編集後記
2016	6	83	1	自分で調べて、納得できる答えを
2016	6	83	2-3	フィールドレポーター交流会開催
2016	6	83	3-5	新学芸員さん紹介
2016	6	83	6	枯葉は森に隠せ、生ゴミは家庭菜園に埋めろ

発行年	月	号	ページ	タイトル
2016	6	83	6	博物館は文化都市の髭
2016	6	83	7	お奨めしたい三冊の本
2016	6	83	8-9	大津市の観光資源にカンサイタンボゴが入りませんか?
2016	6	83	10	近江八幡の 怪しい 白花タンボゴ
2016	6	83	11	琵琶湖博物館発案の「真和名」を
2016	6	83	12-13	安曇川左岸域でもカイエビ
2016	6	83	14	日本の過去帳を解読できないか
2016	6	83	15	4～6月の活動報告
2016	6	83	15	7月～9月の活動予定
2016	6	83	15	編集後記
2016	9	84	1	新しい展示室がオープンしました
2016	9	84	2-3	アカトンボ(アキアカネ)の調査・観察会inびわ湖パレイの結果
2016	9	84	4-5	「飛び出し坊やを調べよう」経過と中間報告
2016	9	84	6-7	ツバメの子育て観察(旧東海道の草津宿にて)
2016	9	84	8	トッキョ キョカキョク!
2016	9	84	9	ぶら下がったトンボたち
2016	9	84	10-11	リニューアルした展示室で
2016	9	84	12	掴み所の無い話
2016	9	84	12	カワウ、ドバド、ムクドリの駆逐、駆除
2016	9	84	13	7月～8月の活動報告
2016	9	84	13	9月～11月の活動予定
2016	9	84	13	編集後記
2016	12	85	1	ありがとう交流会「びわ博フェス ☆2016」が開催されました
2016	12	85	2-3	中池見湿地観察交流会
2016	12	85	4-5	“おちばの アート”大盛況でした
2016	12	85	6	2016 年度秋のアキアカネ調査報告
2016	12	85	7	旧草津川(天井川)改修 その後
2016	12	85	7	外来魚は今…!?
2016	12	85	8	家庭環境に殺虫剤は要らない
2016	12	85	8	蟄居レポート
2016	12	85	9-10	箱水田稲作、納豆自家製のすゝめ
2016	12	85	10	町おこしの花園作り
2016	12	85	11	9月～11月の活動報告
2016	12	85	11	12月～2月の活動予定
2016	12	85	11	編集後記
2017	3	86	1	今以上に、活動が深まり、広がる博物館を目指し
2017	3	86	2	ミノムシ調査(2016年度)結果中間報告
2017	3	86	3	亀嵌め把(カメハマハ)トラップ
2017	3	86	4-5	地点情報の書き方
2017	3	86	6-7	みのむし探し・奮闘記
2017	3	86	8	積雪に風紋?
2017	3	86	9	わが家の樹木ードングリ
2017	3	86	10	12月～3月の活動報告
2017	3	86	10	4月～5月の活動予定
2017	3	86	10	編集後記
2017	6	87	1	身のまわりにある不思議をシェアしませんか?
2017	6	87	2-3	フィールドレポーター交流会の報告
2017	6	87	4-7	新学芸員さん紹介
2017	6	87	8-9	カイツブリ調査中間報告
2017	6	87	10	ツバメの子育て観察(旧東海道の草津宿にて)
2017	6	87	11	草津のサンヤレ祭り、他
2017	6	87	12-13	続 近江八幡の怪しいタンボゴ
2017	6	87	14	大津市街・今年のカンサイタンボゴ
2017	6	87	15	赤トンボ(アキアカネ)の夏の調査開催
2017	6	87	16	4月～6月の活動報告
2017	6	87	16	7月～9月の活動予定
2017	6	87	16	編集後記
2017	9	88	1	びわ博フェス、アキアカネ調査、博物館の企画展示と盛りだくさんな夏
2017	9	88	2-5	「ササぶえ、ササぶね、ササあそび」大盛況でし
2017	9	88	6-7	ヤッサシイ会の訪問
2017	9	88	8	殺虫剤スプレーに換えて台所用洗剤水溶液を。
2017	9	88	9	アカトンボ(アキアカネ)の調査inびわ湖パレイの結果

発行年	月	号	ページ	タイトル
2017	9	88	10-11	アカトンボ（アキアカネ）のマーキング調査、過去9年間の結果
2017	9	88	12	秋、里でのアカトンボ《アキアカネ》の調査案内
2017	9	88	13	フィールドレポーター・スタッフ紹介
2017	9	88	14	7月～9月の活動報告
2017	9	88	14	10月～12月の活動予定
2017	9	88	14	編集後記
2017	12	89	1	交流会、新しい調査の準備、カイツブリ調査のまとめと充実している秋冬
2017	12	89	2-3	ヤッサンイ会さんとの交流会
2017	12	89	4	2017年度 秋のアキアカネ調査報告
2017	12	89	5	草津市内でアキアカネ観察
2017	12	89	6	カイツブリ in Autumn
2017	12	89	7	恐竜館でジュラ紀の石灰石に対面
2017	12	89	8	ヒガンバナ
2017	12	89	8	雪がふるまえのはなし
2017	12	89	9	JICA研修報告
2017	12	89	10	2017年度第2回フィールドレポーター調査「橋の名前を調べましょう」参加のご案内
2017	12	89	11	ホームページがリニューアルされました!!
2017	12	89	12	10月～12月の活動報告
2017	12	89	12	H30年1月～3月の活動予定
2017	12	89	12	編集後記
2018	3	90	1	継続は力なり！フィールドレポーター調査が多くの方々に注目されています！
2018	3	90	2-4	はしの名前を調べましょう説明会
2018	3	90	5	橋今昔つれづれ
2018	3	90	6-7	カイツブリの仲間
2018	3	90	8-9	自然と人間の共生フェスタin滋賀（1）
2018	3	90	10	自然と人間の共生フェスタin滋賀（2）
2018	3	90	11	リニューアル工事が本格的に始まりました
2018	3	90	12	1月～3月の活動報告
2018	3	90	12	H30年4月～6月の活動予定
2018	3	90	12	編集後記
2018	6	91	1	好奇心をもって自然や文化を眺めてみると、必ず何か発見があります。発見を共有しましょう
2018	6	91	2-5	フィールドレポーター交流会の報告
2018	6	91	6-7	調査結果の中間報告
2018	6	91	8	カンサイタンポポの花期
2018	6	91	9	ツバメの子育て観察（草津駅東口側商店街にて）
2018	6	91	10-11	タケツツキで倒れ
2018	6	91	12	これってミノムシ？
2018	6	91	13	茶臼山は甦るか
2018	6	91	14	4～6月の活動報告
2018	6	91	14	H30年7月～9月の活動予定
2018	6	91	14	編集後記
2018	9	92	1	第2期リニューアル、企画展示、アキアカネ調査、やっぱり夏は面白い企画が盛りだくさんでした
2018	9	92	2-3	2018年度夏、アキアカネマーキング調査inびわ湖バレイ（報告）
2018	9	92	4	ミノムシ（オオミノガ）との出会い
2018	9	92	5	今年のセミ 雑感
2018	9	92	6-7	「オオキンケイギクを調べよう」中間報告
2018	9	92	8	草津川跡地公園ほか草津市
2018	9	92	9	「de 愛ひろば」見聞
2018	9	92	10	滋賀県・考
2018	9	92	11	ディスカバールームが復活し、おとなのディスカバーが新設されました
2018	9	92	12	7～9月の活動報告
2018	9	92	12	H30年10月～12月の活動予定
2018	9	92	12	編集後記
2019	1	93	1	新年が始まります。今年も「フィールドへ出て発見を共有する」ことを積極的に進めていきましょう！
2019	1	93	2-5	ワークショップ開催
2019	1	93	6	2018年度秋の赤トンボ調査報告

発行年	月	号	ページ	タイトル
2019	1	93	7	みちのく かけめぐり
2019	1	93	8-9	「集まれ！モミジ（カエデ）の仲間たち」調査の中間報告
2019	1	93	10-11	「新エコミュージアム」台日フォーラム・ワークショップに参加して
2019	1	93	12	伊砂神社 550年の佳節記念
2019	1	93	13	10月～12月の活動報告
2019	1	93	13	H31年1月～3月の活動予定
2019	1	93	13	編集後記
2019	3	94	1	フィールドへ出て発見を共有する
2019	3	94	2-3	オオキンケイギク調査の零れ（こぼれ）話
2019	3	94	4-5	「はしの名前を調べましょう」調査よもやま話
2019	3	94	6	はるは白から始まる
2019	3	94	7	孫が見るセカイには
2019	3	94	8-9	棚田はいつから
2019	3	94	10-11	「モミジ（カエデ）」調査よもやま話
2019	3	94	12	1月～3月の活動報告
2019	3	94	12	H31年4月～6月の活動予定
2019	3	94	12	編集後記
2019	6	95	1	はじめまして
2019	6	95	2-8	フィールドレポーター交流会の報告
2019	6	95	9	琵琶湖博物館でも見られる不思議なきもの
2019	6	95	10-11	「橋の名前を調べましょう」調査よもやま話（その2）
2019	6	95	12-13	タンポポとおつきあい
2019	6	95	13	アキアカネ活動計画案内
2019	6	95	14	4月～6月の活動報告
2019	6	95	14	2019年度7月～9月の活動予定
2019	6	95	14	編集後記
2019	9	96	1	セミの鳴き声とともに
2019	9	96	2-3	アキアカネマーキング調査inびわ湖バレイ（報告）
2019	9	96	4	ど根性モミジ
2019	9	96	5	活動状況報告・活動計画案内
2019	9	96	6	エビ豆の謎
2019	9	96	7	エビ豆の謎によせて
2019	9	96	8	ペランダの珍客3
2019	9	96	9	びわ博フェス2019
2019	9	96	10-11	武士は辛いものよ
2019	9	96	12	7月～9月の活動報告
2019	9	96	12	10月～12月の活動予定
2019	9	96	12	編集後記
2019	12	97	1	普通だけど普通じゃない
2019	12	97	2-3	フィールドレポーター2019年度第1回調査夏のセミの調査中間集計結果
2019	12	97	4-8	びわ博フェスのワークショップに参加しました
2019	12	97	9	セミは記憶にとどまったか
2019	12	97	10	秋の赤トンボ調査報告
2019	12	97	11	弁天池にきれいなむらさきのお花がさいた！
2019	12	97	12	お宅のエビ豆を調べて頂けませんか
2019	12	97	13	10月～12月の活動報告
2019	12	97	13	1月～3月の活動予定
2019	12	97	13	編集後記
2020	3	98	1	フィールドレポーターの思い
2020	3	98	2-3	近江の食調査集計はじまる
2020	3	98	4-5	湖東・湖南地区の勧請かんじょう）吊り見聞録
2020	3	98	6-7	橋の欄干でアートを楽しむ
2020	3	98	8-9	今年のタンポポ事情
2020	3	98	10	令和元年度1月～3月の活動報告
2020	3	98	10	令和2年度4月～6月の活動予定
2020	3	98	10	編集後記
2020	8	99	1	フィールドレポーター新担当よりごあいさつ
2020	8	99	2-3	タンポポ調査結果中間報告
2020	8	99	4	変わった葉のタンポポを見つけました
2020	8	99	5	戻ってきた？珍客4
2020	8	99	6	グミの木に、ドキ土器

発行年	月	号	ページ	タイトル
2020	8	99	7	このセミは今年者、去年者
2020	8	99	8	今年の初観察
2020	8	99	9	フィールドレポーターの皆さんへご報告
2020	8	99	9	令和元年度3月の活動報告
2020	8	99	9	令和2年度4月～7月の活動報告
2020	8	99	10	令和2年度8月～9月の活動予定
2020	8	99	10	編集後記
2022	3	100	1	情報が行きかい、新たな活動が生まれる「掲示板」に
2022	3	100	2	交流会回想
2022	3	100	3	フィールドレポーター活動の回想
2022	3	100	4	負うた子に教えられ
2022	3	100	5	フィールドレポーターに参加した思い出
2022	3	100	6	余生の課題は観察
2022	3	100	7	掲示板100号によせて
2022	3	100	8-9	タンポポの頭花基部の幅
2022	3	100	10	2020年度 秋の赤とんぼ調査実施報告
2022	3	100	11	12月中旬琵琶湖、南湖上空に舞うツバメ(?)発見
2022	3	100	11	番のイソヒヨドリを見つけた
2022	3	100	12-14	近江商人のパワーは どころがめ汁
2022	3	100	15-28	掲示板100号までの軌跡 ～掲示板タイトル総目次～
2022	3	100	29-30	令和2年度・3年度の活動報告
2022	3	100	31	2022年4月～6月の活動予定
2022	3	100	31	編集後記



これまでの掲示板で話題になった生き物たち

## 11. 活動報告

### フィールドレポーターの皆さんへご報告

新型コロナウイルスによる活動自粛の中、掲示板 99 号を発行出来たのが昨年（令和 2 年）8 月でした。今まで普通にしていたことがすべて制約され、人と向きあって話をするこすままならない環境に 1 年以上置かれると予想した方は居なかったでしょう。

掲示板も記念すべき 100 号を迎え、節目の交流会を開催する中で、感動の思い出や、苦勞話を集め発刊出来ることを楽しみにしていましたが成らず、丸一年の空白期間を作ってしまった。

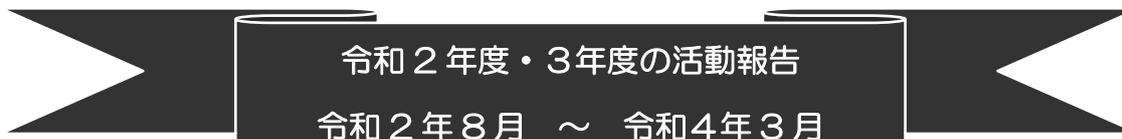
諸般の事情があったにせよ、次善の策を模索出来たと思います。具体的活動に至らなかった点のお叱りは真摯にお受けし、お詫び申し上げます。

令和 3 年も年末に入りコロナウイルス渦の第 5 波が収まり、つかの間の安堵感が持てる状況にあつて、フィールドレポーターの投稿のあり方を少し考え直す時期に差しかかっているのではないかとこの意見が出てきました。

従来通りペーパー投稿の基本は継続しますが、すでにネットによる報告、連絡は実施中です。今回これに加え、オンラインでの交流を取り入れた機動性のある活動も行なう事を検討中です。

パソコンを駆使する活動と聞くと年配者には相当強い抵抗感があるかも知れませんが、時代の流れにも乗るののも活動推進には必要かと考えています。登録参加者の若返りも期待出来、活動に新鮮な息吹が入り、新たな活動スタイルが出来上がれば幸いです。

当号は令和 3 年 1 2 月から令和 4 年 3 月にかけて編集を行いました。“新型コロナウイルス禍終息”の報道を心から望みながらの連絡と致します。



月	日	内 容	参加者	主な議題・活動
8 月	1 日（土）	定例会実験室	7 名	①掲示板 99 号発行最終調整、②FR 新ロゴ検討、③タンポボ調査経過報告
	8 日（土）	臨時会、交流室	5 名	掲示板 99 号発行
	22 日（土）	定例会、実験室	8 名	・100 号掲示板投稿要請の確認、・FR 新ロゴ決定
9 月	5 日（土）	定例会、実験室	9 名	アキアカネ調査日の決定（10/1）参加呼びかけ
	19 日（土）	定例会、実験室	7 名	アキアカネ調査案内発信作業。
10 月	3 日（土）	アキアカネ調査	22 名	アキアカネ調査伊香立南庄町
	17 日（土）	定例会、実験室	7 名	アキアカネ麓調査の報告
11 月	7 日（土）	定例会、実験室	8 名	掲示板 100 号について
	20 日（土）	定例会、実験室	8 名	①タンポボ調査中間報告 ②ヌートリア調査に向けて論議
12 月	4 日（土）	定例会、実験室	9 名	第 2 回調査内容「ヌートリア」決定内容と調査手法の検討
	18 日（土）	定例会、交流室	4 名	①100 号記念号の投稿要請、進め方 ②セミ調査の発行準備 ③次回調査内容自由発言

令和3年				
1月	9日(土)	定例会・実験室	7名	①ヌートリア調査案内採集案決定 ②食調査まとめ・検討報告
	23日(土)	定例会、実験室	7名	①レポーター便り「セミ調査」発刊 ②食調査経過報告 ③タンポポ調査経過報告
2月	13日(土)	定例会、実験室	5名	①2021 第1回FR調査「え?こんなところにヌートリア」発送
	27日(土)	開催無し		
3月	6日(土)	定例会、実験室	6名	①レポーターだより「たんぼぼ」54号最終チェック ②ヌートリア調査経過報告
	7日(日)	「地域自然史と保全」研究大会にてポスター発表		
	20日(土)	定例会、実験室	6名	活動予定確認 ①ヌートリア5月中巡まで観察延長、途中現地観察実施 ②「たんぼぼ」だより4/3発送
4月	3日(土)	定例会、実験室	6名	①レポーターだより「たんぼぼ」54号 発行
	17日(土)	定例会、実験室	9名	①ヌートリア調査現状報告確認、今後の方針論議 ②新年度の調査テーマについて、フリー討議
5月	1日(土)	ヌートリア現地調査 雨天中止		
	15日(土)	琵琶湖岸	7名	ヌートリア現地調査、湖東、湖西グループ分け
6月	5日(土)	定例会、実験室	5名	①ヌートリア現地観察まとめ ②食調査まとめ進捗
	19日(土)	新型コロナウイルス感染症拡大のため定例会中止		
7月	3日(土)	定例会、実験室	6名	食調査まとめ。 企画展でのパネル展示
	17日(土)	定例会、実験室	6名	2021年「琵琶湖博物館企画展」見学
8月	新型コロナウイルス感染症拡大のため定例会中止			
9月	新型コロナウイルス感染症拡大のため定例会中止			
10月	2日(土)	定例会、交流室	5名	アキアカネ調査の準備
	16日(土)	伊香立南庄町	7名	アキアカネ調査
11月	6日(土)	定例会、交流室	6名	①アキアカネ調査報告・夏の山頂調査の今後について検討 ②掲示板100号発行に向けての取り組み
	20日(土)	定例会、実験室	6名	①フィールドレポーター活動方法について検討 ②Facebookでの情報交換にむけた検討
12月	4日(土)	定例会、交流室	6名	①100号内編集内容の再確認 ②Facebookによる情報交換の検討、実演
	18日(土)	定例会、交流室	6名	100号原稿内容確認
1月	8日(土)	定例会、実習室	6名	Slackによる情報交換の検討、実演
	22日(土)	新型コロナウイルス感染症拡大のため定例会中止		
2月	新型コロナウイルス感染症拡大のため定例会中止			
3月	6日(日)	「地域自然史と保全」研究会にて口頭発表		
	新型コロナウイルス感染症拡大のため定例会中止			

## 12. 活動予定

### 2022年 4月～6月の活動予定

	日 時	内 容	場 所
4月	2日(土)	新型コロナウイルス感染症拡大のため定例会中止	
	16日(土) 13:30~16:30	定例会(予定)	交流室
5月	7日(土) 13:30~16:30	定例会(予定)	交流室
	21日(土) 13:30~16:30	定例会(予定)	交流室
6月	4日(土) 13:30~16:30	定例会(予定)	交流室
	18日(土) 13:30~16:30	定例会(予定)	交流室

- 定例会は原則として、第1、第3土曜日の13:30~16:30に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。※新型コロナウイルス感染症拡大による変更などがありますので、ご注意ください。定例会はどなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学も大歓迎です。なお、予定が変更になる場合があります。詳細は、琵琶湖博物館フィールドレポーター係 (Email: freporter@biwahaku.jp) までお問い合わせください。
- 今後の活動では、メール調査や報告にも力点を入れ、調査エリアを広げるとともに、レポーターの年齢層と数が少しずつ大きくなるようなオンラインコンテンツでの交流も取り入れていきたいと考えています。そのための学習は必要ですのでレポーターの皆様からの適切な助言がいただけますよう宜しくお願いいたします。

### 編集後記

前号発行の2020年8月は、コロナ禍第2波の時期でした。滋賀県は幸いに大きな混乱が無かったものの、全国一律の規制にあわせ博物館の出入りが厳重にチェックされ、人数制限、場所制限の中、何とか定例会を開催して最低の活動を持続してきましたが、3、4、5波での緊急事態宣言



滋賀県立  
琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091  
TEL: 077-568-4811 FAX: 077-568-4850  
E-mail: freporter@biwahaku.jp

発令中はすべての活動停止時期が発生しました。館内でのレポーター活動がこんなに長く停止するとは誰も思っていませんでした。それでも2019年度の「セミ調査」、2020年度の「タンポポ調査」の“レポーターだより”は滞りながらお届け出来ました。

本来、この100号記念掲示板は令和3年新春号として発刊予定でしたが、丸1年遅れ発行になってしまいました。広くレポーターの皆さんから寄せられた文面で構成できるよう各員に連絡やお願いをしましたが、皆さんの声を吸い上げるに至らず、現在担当スタッフ中心の内容になってしまいました。すべてコロナ禍のせいに出来ませんが、どうかご理解を頂きたいと思います。

世間情勢はまだ混沌として居ますが、レポーターの皆様と一緒に正常な社会活動に戻る日が近いことを信じたいとおもいます。くれぐれもお体大切に御自愛ください。(編集担当・中野)